

Oracle® Fusion Cloud EPM

Oracle Enterprise Performance Management Cloud ユーザー・スタート・ガイド



F10683-20

ORACLE®

Oracle Fusion Cloud EPM Oracle Enterprise Performance Management Cloud ユーザー・スタート・ガイド、
F10683-20

Copyright © 2017, 2024, Oracle and/or its affiliates.

著者: EPM Information Development Team

This software and related documentation are provided under a license agreement containing restrictions on use and disclosure and are protected by intellectual property laws. Except as expressly permitted in your license agreement or allowed by law, you may not use, copy, reproduce, translate, broadcast, modify, license, transmit, distribute, exhibit, perform, publish, or display any part, in any form, or by any means. Reverse engineering, disassembly, or decompilation of this software, unless required by law for interoperability, is prohibited.

The information contained herein is subject to change without notice and is not warranted to be error-free. If you find any errors, please report them to us in writing.

If this is software, software documentation, data (as defined in the Federal Acquisition Regulation), or related documentation that is delivered to the U.S. Government or anyone licensing it on behalf of the U.S. Government, then the following notice is applicable:

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs) and Oracle computer documentation or other Oracle data delivered to or accessed by U.S. Government end users are "commercial computer software," "commercial computer software documentation," or "limited rights data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, reproduction, duplication, release, display, disclosure, modification, preparation of derivative works, and/or adaptation of i) Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs), ii) Oracle computer documentation and/or iii) other Oracle data, is subject to the rights and limitations specified in the license contained in the applicable contract. The terms governing the U.S. Government's use of Oracle cloud services are defined by the applicable contract for such services. No other rights are granted to the U.S. Government.

This software or hardware is developed for general use in a variety of information management applications. It is not developed or intended for use in any inherently dangerous applications, including applications that may create a risk of personal injury. If you use this software or hardware in dangerous applications, then you shall be responsible to take all appropriate fail-safe, backup, redundancy, and other measures to ensure its safe use. Oracle Corporation and its affiliates disclaim any liability for any damages caused by use of this software or hardware in dangerous applications.

Oracle®, Java, MySQL, and NetSuite are registered trademarks of Oracle and/or its affiliates. Other names may be trademarks of their respective owners.

Intel and Intel Inside are trademarks or registered trademarks of Intel Corporation. All SPARC trademarks are used under license and are trademarks or registered trademarks of SPARC International, Inc. AMD, Epyc, and the AMD logo are trademarks or registered trademarks of Advanced Micro Devices. UNIX is a registered trademark of The Open Group.

This software or hardware and documentation may provide access to or information about content, products, and services from third parties. Oracle Corporation and its affiliates are not responsible for and expressly disclaim all warranties of any kind with respect to third-party content, products, and services unless otherwise set forth in an applicable agreement between you and Oracle. Oracle Corporation and its affiliates will not be responsible for any loss, costs, or damages incurred due to your access to or use of third-party content, products, or services, except as set forth in an applicable agreement between you and Oracle.

For information about Oracle's commitment to accessibility, visit the Oracle Accessibility Program website at <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>.

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて

ドキュメントのフィードバック

1 EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行

2 EPM Cloud について

EPM Cloud の概要	2-1
Planning モジュール	2-1
Planning (Planning and Budgeting Cloud)	2-3
フリーフォーム	2-4
Strategic Workforce Planning	2-5
Sales Planning	2-6
Financial Consolidation and Close	2-9
Tax Reporting の概要	2-10
Profitability and Cost Management	2-11
Profitability and Cost Management について	2-11
Enterprise Profitability and Cost Management について	2-11
Account Reconciliation	2-12
Enterprise Data Management	2-13
Enterprise Data Management および Oracle Enterprise Data Management Cloud の機能	2-14
Oracle Enterprise Data Management Cloud の概要	2-16
Narrative Reporting	2-16
EPM Cloud の URL	2-17
クラシック EPM Cloud の URL	2-17
OCI EPM Cloud の URL	2-19
情報ソース	2-19
Oracle Cloud Help Center	2-21

Oracle Learning Library	2-21
EPM Cloud ローカライゼーションの理解	2-21

3 EPM Cloud の設定およびアクセス

EPM Cloud のブラウザの設定	3-1
サポートされているブラウザ	3-1
ローカライズ版のサービス用の Google Chrome の構成	3-2
Microsoft Edge の構成	3-3
Firefox の構成	3-3
ローカライズ版のサービス用の Firefox の構成	3-5
最小画面解像度	3-5
EPM Cloud へのアクセス	3-5
EPM Cloud 資格証明を使用した認証	3-5
シングル・サインオン資格証明を使用した認証	3-6
ホーム・ページ	3-7
パスワードの変更	3-8
Oracle Cloud Customer Connect への参加	3-8
アクセシビリティ・モードの有効化	3-9

4 EPM Cloud コンポーネントの操作

使用可能なクライアントおよびユーティリティ	4-1
Smart View の前提条件	4-4
Smart View および Calculation Manager を使用するサービス	4-4
クライアントのダウンロードおよびインストール	4-5
Smart View を使用したサービスへのアクセス	4-6
接続タイプ	4-6
Smart View 接続の URL 構文	4-6
クラシック環境	4-6
OCI 環境	4-7
Smart View での接続の構成	4-8
共有接続の構成	4-8
プライベート接続の構成	4-8
Smart View 接続の開始	4-9
Financial Reporting Web Studio を使用したサービスへの接続	4-9

5 新機能および更新の学習

EPM Cloud 機能ツールを使用した各月にリリースされた機能の表示	5-1
-------------------------------------	-----

6 フィードバックの提供ユーティリティを使用してオラクル社の診断情報収集に協力する

フィードバックの提供ユーティリティを使用したフィードバックの送信	6-2
フィードバック通知の無効化	6-3

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle Support へのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

ドキュメントのフィードバック

このドキュメントに対するフィードバックを送るには、Oracle Help Center トピックのページの下部にあるフィードバック・ボタンをクリックします。epmdoc_ww@oracle.com に電子メールを送信することもできます。

1

EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行

EPM のベスト・プラクティスは、CoE (センター・オブ・エクセレンス)を作成することです。

EPM CoE は、導入およびベスト・プラクティスを確実にするための統合された取組みです。パフォーマンス管理およびテクノロジー対応ソリューションの使用に関連するビジネス・プロセスの変革を促進します。

クラウドの導入により、組織がビジネス・アジリティを改善し、革新的なソリューションを促進することが可能になります。**EPM CoE** はクラウド・イニシアチブを監督し、投資を保護および維持し、効果的な使用を促進するのに役立ちます。

EPM CoE チーム:

- クラウドの導入を確実にし、組織が **Cloud EPM** の投資を最大限に活用することを支援します
- ベスト・プラクティスの運営委員会として機能します
- **EPM** 関連の変更管理イニシアチブをリードし、変革を促進します

すでに **EPM** を実装済の顧客を含めて、すべての顧客が **EPM CoE** からメリットを得られます。

使用を開始する方法

クリックして、**EPM CoE** のベスト・プラクティス、ガイダンスおよび戦略を取得します: **EPM センター・オブ・エクセレンスの概要**。

さらに学習

- クラウド・カスタマ・コネクト Web セミナーを見る: [Cloud EPM のセンター・オブ・エクセレンス\(CoE\)の作成および実行](#)
- ビデオを見る: [概要: EPM センター・オブ・エクセレンスおよびセンター・オブ・エクセレンスの作成](#)。
- [EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行の EPM CoE のビジネス上のメリットおよび価値提案の確認](#)。



2

EPM Cloud について

この項の内容:

- [EPM Cloud の概要](#)
- [Strategic Workforce Planning](#)
- [Sales Planning](#)
- [EPM Cloud の URL](#)
- [情報ソース](#)

EPM Cloud の概要

Oracle Enterprise Performance Management Cloud では、次のサービスが提供されます。

- [Planning](#)
- [Planning モジュール](#)
- [フリーフォーム](#)
- [Financial Consolidation and Close](#)
- [Tax Reporting](#)
- [Profitability and Cost Management](#)
- [Enterprise Profitability and Cost Management](#)
- [Account Reconciliation](#)
- [Oracle Enterprise Data Management Cloud](#)
- [Narrative Reporting](#)

サービスおよび環境について

EPM Cloud とともに動作するサービスを購入します。各サービスによって、2つの環境(テスト環境と本番環境)に対する権利が付与されます。

Planning モジュール

Planning モジュールは、財務、要員、資本およびプロジェクトに関する完全なプランニングおよび予算策定ソリューションで構成されます。これらのビジネス・プロセスには、フォーム、計算、ダッシュボード、ドライバ、キー・パフォーマンス・インジケータ(KPI)などの組み込みのベスト・プラクティスの事前定義されたコンテンツが含まれます。フォームは、データ、プランおよび予測を動的に反映するダッシュボードおよびレポートと統合されるように設計されています。

目的	視聴
Planning モジュールについてさらに学習します。	 概要ツアー・ビデオ

財務

財務ソリューションでは、損益計算書、貸借対照表およびキャッシュ・フローに対する統合されたドライバ・ベースのプランニングが提供されます。KPI、ドライバ、勘定科目などの即時利用可能ツールを使用すると、レポートの準備にかかる時間を短縮できます。また、財務を使用して費用および収益のプランニングを実行することもできます。

目的	視聴
財務についてさらに学習します。	 概要ツアー・ビデオ

要員

要員ソリューションでは、財務プランと要員プランを結び付ける人数および報酬のプランニングが可能になります。将来の人数と関連する人事費用(給与、福利厚生、税金など)の予算を作成できます。

目的	視聴
要員についてさらに学習します。	 概要ツアー・ビデオ

プロジェクト

プロジェクト・ソリューションは、プロジェクト・プランニング・システムと財務プランニング・プロセスを結び付けます。これにより、組織的なプロジェクトやイニシアチブがリソース全体に及ぼす影響を調査して、短期的および長期的な財務目標と一致することを確認できます。

目的	視聴
プロジェクトについてさらに学習します。	 概要ツアー・ビデオ

資本

資本ソリューションは、財務プランに対する資本資産の長期的影響に関するプランを作成し、資本費用を管理、優先付けおよびプランニングする際に役立ちます。

目的	視聴
資本についてさらに学習します。	 概要ツアー・ビデオ

戦略モデリング

戦略モデリング・ソリューションは、長期的な戦略プランニングのために、豊富な財務予測およびモデリング機能と、ビルトインされたオンザフライのシナリオ分析およびモデリング機能を組み合わせたソリューションです。

目的	視聴
戦略モデリングについてさらに学習します。	 概要ツアー・ビデオ

サービス管理者が有効にした機能によっては、このガイドで説明するすべての機能が表示されないことがあります。サービス管理者は、一部の機能を付加的に有効化でき、これにより追加のフォーム、ダッシュボード、KPI、ルールなどが追加されます。

Planning (Planning and Budgeting Cloud)

Planning は、Oracle Fusion Cloud EPM 向けに構築されデプロイされているサブスクリプションベースのプランニングおよび予算策定ソリューションで、柔軟で実績もあるプランニングおよびレポート作成用のハイレベルなアーキテクチャを使用しています。これは企業のすべての事業部門におけるビジネス・プランナ、アナリスト、モデラーおよび意思決定者に対して、たちどころに価値をもたらす生産性を向上させます。ユーザーは Web 2.0 または Microsoft Office インタフェースを利用してモデリング、計画およびレポート作成を行います。このサービスは、スケーリングとパフォーマンスのために設計されており、業界標準の Oracle Fusion Cloud EPM インフラストラクチャを使用しています。

実績のあるプラットフォームとテクノロジー

このサービスは、データとビジネス・プロセスの断片化を回避することで、企業におけるクラウド戦略の効率的な計画を支援します。これは、Oracle Enterprise Performance Management Cloud リソースを最適化するように作成されています。このサービスの機能的なアーキテクチャは、実績のある Planning プラットフォームを基盤としており、このプラットフォームは、数多くの業界で単純なものから複雑なものまで、プランニング・ユースケースの解決に役立っています。EPM Cloud では、企業全体のユーザー・プロファイルを一箇所で保守管理できるため、組織がサブスクライブするすべての EPM Cloud サービス全体で再利用できます。

クラス最高の機能性

このサービスは、期限があり、目標のはっきりした計画アクティビティのためのドライバ・ベースのモデリング、ローリング予測および管理レポートに対して、直感的な Web 2.0 および Microsoft Office インタフェースを提供します。オンザフライ・モデルを簡単に作成および共有し、それを高度な統計予測機能に対して検証することで、先入観がなく、正確かつ迅速な計画を生成できます。このサービスは、強力な注釈、コメント、ドキュメントの添付、タスク、ワークフローおよびレポート機能を使用した、企業全体におけるリアルタイムの共同計画および差異分析のために構築されています。

スケーラブルかつフレキシブル

このサービスは、強力な Essbase OLAP 計算エンジンと包括的なルール・フレームワークを活用して、大量のデータの複雑な計算の高速処理を可能にします。サービスに組み込まれた時間およびデータ・インテリジェンスは、分散的で高速なオンデマンドの集計機能を即時に提供します。オンザフライ・モデルの作成および共有によって、Microsoft Excel と Web インタフェースを使用して迅速に構築および共同作業を行うことができます。

エンタープライズ最適化

このサービスは、あらゆる規模の組織のためのビジネス計画アクティビティを構築、デプロイおよび管理するための一元的なクラウド・サービスです。これは小規模から大規模のデプロイメント、データのバックアップおよび移行、さらにパッケージ化された Enterprise

Resource Planning (ERP)のデータ統合機能をサポートしており、小規模な顧客にとっての操作性やセルフサービスを損うことはありません。このサービスには、問題を特定し、サポートを得て製品の拡張機能を検索するための包括的な機能が含まれます。これにより、フラット・ファイルおよび Excel ベースのインポートおよびエクスポートと、より高度なデータ統合ユースケースのための包括的なマッピング機能が提供されます。シームレスに情報をロードおよび抽出でき、ソース ERP にドリルバックすることもできます。

迅速なデプロイメント

このサービスは、初期投資が不要であるため、即座に起動できます。必要なものはすべてサブスクリプションに含まれます。ソフトウェアのライセンス取得、インストール、アップグレードまたはパッチ適用は必要ありません。ハードウェアの購入、インストールまたは構成は不要です。また、世界規模の Oracle Hyperion パートナ・ネットワークの製品に関する深い専門知識を活用することで、クイックスタート・テンプレートを使用してクラウドベースのプランニング・アプリケーションを数週間で開発およびデプロイすることもできます。

移植性

既存の Planning ユーザーは組込みの移行機能を使用して、オンプレミス Planning アプリケーションをサービスに移行できます。この機能により、組織では、IT リソースと予算の追加を求めることなく、Planning の使用を企業間で他の事業部門に導入または拡張できるようになります。

目的	視聴
Planning についてさらに学習します。	 概要ツアー・ビデオ

フリーフォーム

フリーフォームは、Oracle Fusion Cloud EPM にデプロイされているサブスクリプションベースの柔軟でカスタマイズ可能なレポートおよびプランニング・ソリューションです。実績のあるスケーラブルなクラス最高の Oracle SaaS Cloud アーキテクチャを使用しています。

フリーフォーム・ビジネス・プロセスは、クラウド・サービス間またはクラウドとオンプレミス・ソリューション間のレポート・データの断片化を回避することで、企業がクラウド戦略を効率的に計画するのに役立ちます。これは企業全体のすべての事業部門についてのユースケースのレポートおよびプランニングに対して、即座に価値をもたらす生産性を高めます。詳細は、[フリーフォームの管理](#)のフリーフォームの理解を参照してください

ユーザーは、Web ブラウザまたは Microsoft Office インタフェースを介してフリーフォームと相互作用し、ビジネス・ニーズを共同でレポート、分析および計画します。

実績のあるプラットフォームとテクノロジー

フリーフォームの機能的なアーキテクチャは、実績のある EPM Cloud Platform を基盤としており、数多くの業界で単純なユースケースから複雑なユースケースまで解決するための統合されたレポートおよびプランニング・ソリューションを提供します。フリーフォーム・ビジネス・プロセスでは、企業全体のレポート、決算およびプランニングのユースケース、さらにユーザーとそのセキュリティを一元管理できます。

クラス最高の機能性

フリーフォーム・ビジネス・プロセスを使用して、フォーム、レポート、およびリアルタイムのコラボレーション・ダッシュボードを使用するオンザフライ what-if モデルを簡単に作成できます。アドホック分析を実行し、注釈、コメントおよびドキュメントの添付を使用して強力なカスタム・レポートを作成することもできます。

スケーラブルかつフレキシブル

フリーフォームは、強力な Oracle Essbase OLAP 計算エンジンと、包括的な Web および Microsoft Office ベースの Oracle Smart View for Office を活用して、大量のデータが含まれる複雑なグリッドの高速レンダリングを可能にします。組込みの時間およびデータ・インテリジェンスは、分散的で高速なオンデマンドの集計機能を即時に提供します。オンザフライ・モデルを作成して共有することで、Excel と Web インタフェースを使用して迅速に構築および共同作業を遂行できます。

エンタープライズ最適化

フリーフォームは、柔軟でカスタマイズ可能なモデリングおよびレポート・ソリューションを Oracle 以降の大規模なトランザクション・システムにシームレスにプラグインするための一元的なビジネス・プロセスです。大小様々な規模のデプロイメント、データのバックアップおよび移行をサポートします。また、小規模なユーザーにとっての操作性やセルフサービスを損うことなく、Enterprise Resource Planning (ERP) のデータ統合機能を提供します。これにより、フラット・ファイルおよび Excel ベースのインポートおよびエクスポートと、より高度なデータ統合ユースケースのための包括的なマッピング機能が提供されます。シームレスに情報をロードおよび抽出したり、ソース ERP システムにドリルバックできます。

Essbase の移植性

既存のフリーフォームのユーザーは、組込みの移行機能を活用し、オンプレミス Essbase アプリケーションをフリーフォーム・ビジネス・プロセスに移行して、これらの Essbase キューブを SaaS ベースでデプロイできます。この機能により、組織はレポートおよびプランニングのクラウド・ファースト戦略を追求できます。

統合デプロイメント

フリーフォーム・ビジネス・プロセスを使用して、統合された構築内でレポート、分析および計画を実行できます。Oracle Enterprise Performance Management Cloud のサブスクリプションには、Web および Smart View のインタフェースを使用したレポートおよびプランニングの観点から必要なすべてのものが含まれています。ソフトウェアのライセンス取得、インストール、アップグレードまたはパッチ適用は必要ありません。ハードウェアの購入、インストールまたは構成は不要です。フリーフォームでは、世界規模の Oracle Hyperion パートナ・ネットワークの製品に関する深い専門知識を活用して、クラウドベースのアプリケーションをわずか数週間で開発およびデプロイできます。

Strategic Workforce Planning

Strategic Workforce Planning で、戦略が適切な要員(適切な時点での適切なスキル・セットと人数)によってサポートされるようにし、企業の長期的戦略を実行計画に転換します。

Strategic Workforce Planning は、EPM Enterprise Cloud Service で、Planning ビジネス・プロセスのアプリケーション・タイプとして使用できます。

Strategic Workforce Planning は、EPM Cloud プラットフォーム・フレームワークを使用した拡張が可能であり、カスタム・ナビゲーション・フロー、ダッシュボードおよびインフォレ

ットを含めた追加の構成とパーソナライゼーションを **Strategic Workforce Planning** アプリケーションに組み込むことができます。

このような需要に影響を与えるシナリオを調査することにより、リソースに対する長期的な需要を把握します。また、現在の要員で(たとえば、定年退職や自然減を通じて)将来どのようなことが起きるかも把握します。供給に対する需要を評価すると、どのようなギャップ(プラスまたはマイナス)があるかを理解し、必要なリソースを予見的にプランニングできます。ビジネス戦略のサポートに必要な人数とスキルを見積もることができます。

Strategic Workforce Planning では、構成可能なドライバや要求に対するしきい値が提供され、プランナは「将来のプランを達成するための適切なスキル・セットが従業員に備わっているか」、「予定されている費用と収益はプランに対応できるか」といった質問に答えることができます。ドライバごとに最適な計算ロジックを選択します。これにより、ドライバの値が将来の長期的な常勤換算(FTE)に変換されます。

Strategic Workforce Planning について学習するには、このビデオをご覧ください。



概要ツアー・ビデオ

また、要員で人数に関連する費用の管理と追跡を有効にすることもできます。これにより、企業のクリティカルなリソース(人材と資金)を、競争優位性を最もよく引き出す戦略に合わせるすることができます。各部門は、人数および関連する費用(給与、医療費、ボーナス、税金など)のプランニングを共同して行うことができます。プランナは、費用とトレンドを示す最新のグラフィックを見ることができます。

要員ですべての機能が有効になっている場合、プランナは人数に関連する費用を管理および追跡できます:

- 人数、給与、ボーナス、税金および医療の費用を分析、計算および報告します
- 採用、異動、昇進、雇用終了などをプランニングします
- 国に適した税金と福利厚生を定義します

Sales Planning

Sales Planning を使用すると、主要販売業務プロセス内のスプレッドシートを取り除いて重要なプロセスを自動化できるため、販売目標のプランニングとモデリングのためのコラボレーションが向上します。**Sales Planning** は、**EPM Enterprise Cloud Service** で、**Planning** ビジネス・プロセスのアプリケーション・タイプとして使用できます。

Sales Planning は、**EPM Cloud** プラットフォーム・フレームワークを使用した拡張が可能であり、カスタム・ナビゲーション・フロー、ダッシュボードおよびインフォレットを含めた追加の構成とパーソナライゼーションを販売プランニング・アプリケーションに組み込むことができます。

タスクおよび承認を使用して、目標プランニング・プロセスを管理します。**Groovy** ルールを使用して、拡張的な計算およびビジネスのルールのために追加のカスタマイズを行います。**Sales Planning** を **Oracle Engagement Cloud (Sales Cloud)** と統合して、目標ターゲットをインセンティブ報酬にプッシュしたり、実績を取り込むことができます。

目的	視聴
Sales Planning についてさらに学習します。	 概要ツアー・ビデオ

目標プランニングについて

目標プランニング・ビジネス・プロセスは、テリトリ、製品、アカウントまたはその他のカスタム・ディメンションによるトップダウンおよびボトムアップのターゲット目標プランニングを提供します。予測プランニングおよび **What If** シナリオ・プランニングを使用して、十分な情報を得た上で意思決定を行うために、様々な目標シナリオを調査および比較します。目標プランニングでは、ベスト・プラクティスを(フォーム、計算、ダッシュボード、インフォレット、ドライバおよびメジャーを含む)そのコンテンツに組み込みます。

目標プランニングを使用すると、プロセスのすべての参加者(営業部長、営業活動、営業マネージャ、営業担当など)を関与させることで、信頼できるターゲット目標をプランニングできます。翌年のターゲット目標を設定します。次に、製品別の調整、パディングや季節性の適用、または予測プランニングや **what-if** 分析の実行により、結果を最適化します。ターゲットの準備ができたなら、プランナがトップダウンまたはウォーターフォールのプランニングを実行して、ターゲット目標を階層全体に割り当てます。

また、組織に必要であれば、営業担当からの目標コミットメントを得るためのボトムアップ・プランニングを実行して、コラボレーション・アプローチを可能にすることもできます。ターゲット目標を階層の次のレベルにまで押し上げて集約した後は、トップダウンの結果とボトムアップの結果を比較できます。組込みダッシュボードを使用して、目標達成率による目標プランの分析と評価を行います。

追加のメジャー、タスク・リストまたは承認を組み込んで、組織内のプランニング・プロセスを強化します。

目的	視聴
目標プランニングについてさらに学習します。	 概要: Sales Planning の目標プランニング

詳細売上予測について

詳細売上予測は売上予測プロセスのための堅牢なプラットフォームを提供し、テリトリや製品、アカウント、チャンネル、その他のカスタム・ディメンションにまたがるマルチディメンショナル売上予測が可能です。目標プランニング、報酬プランニングおよび売上予測を統合して、営業チームと販売プランニングを結び付けます。詳細売上予測では、週次または月次レベルでプランニングできるとともに、ビジネスが必要であればローリング予測を使用できます。次の主な機能が提供されます。

- 販売階層全体のデータ駆動型売上予測に役立つメトリック、KPI、メジャーなど、売上予測および分析に即時利用可能なベスト・プラクティス・コンテンツ。
- カスタム・フォームとダッシュボード、メジャー、ディメンション、ナビゲーション・フロー、カスタム計算用の **Groovy** ルールなどの追加構成を可能にする、**Planning Cloud** プラットフォームを使用した拡張性。
- テリトリ・レベルまたは詳細レベル(製品やアカウントなど)で予測コミットメントを調整し、協調的データ駆動型の予測コミットメントを促進する機能。
- 予測から推量を排除する予測プランニング。

- Sales Planning をはじめ、Oracle Enterprise Performance Management Cloud 向けに設計された一般的な Microsoft Office インタフェースを提供する Oracle Smart View for Office。
- 即時利用可能なレポート・キューブを使用した瞬時の集計およびレポート。

詳細売上予測により、予測の信頼性が著しく向上するとともに、販売管理および営業担当者の間のアカウントビリティおよびコラボレーションが大きく促進されます。

キー・アカウント・プランニングについて

キー・アカウント・プランニングは、販売ベースライン・プランニングおよび販売プランへの取引プロモーションの影響に対するデータ駆動型アプローチに対応できるように Sales Planning を拡張します。その結果、顧客および製品グループ別に、プロモーション数量と非プロモーション数量および収益の評価を含む、顧客の利益と損失の概要が表示されるようになりました。キー・アカウント・プランニングは、キー・アカウント・マネージャが、取引経費を最適化するための取引プロモーション戦略を計画するのに役立ち、共同販売プランニングを提供します。ベースライン・プランニングとプロモーション・プランニングを使用することで、キー・アカウント・マネージャまたは営業マネージャは、ギャップ分析を実行し、取引プロモーションの実施によるアップリフト(売上高または収益に対する影響)を確認できます。

これらのタスクは「キー・アカウント・プランニング」で実行します:

- ベースライン・プランニングを実行します。キー・アカウントおよび製品セグメント別の予測を実行し、what if シナリオ・モデリングを実行して、調整を加えます。
- 次に、ベースライン・プランで、異なる価格設定、配置および製品バリエーションなどのビルディング・ブロックを使用して、追加の非プロモーション販売プランの調整を特定します。
- 続けて、取引プロモーション・アクティビティを追加、分析および調整して、戦略的にターゲットとプランの間のギャップを埋めることで、顧客および COGS に指定されている追加の契約メジャーを含む、アカウント、取引支出、利益と損失に対する各プロモーションの増分アップリフト・ボリュームを特定し、顧客の利益と損失に関する全体像を把握します。
- 最後に、ボリュームおよび収益プランを確認し、取引支出と過去のプロモーションを分析して、キー・アカウント・プランニングおよびその他の販売プランニングにおける意思決定で使用できる情報を取得します。

主な機能には、次のものがあります:

- 組込みの予測プランニングを含むベースライン・プランニング
- ターゲットを取り込むための目標プランニングとの統合
- ギャップ分析 – ターゲットとベースラインの比較
- 取引プロモーション・プランニング
 - 指定されたアップリフトに基づき、該当月のボリュームと取引支出を促進する日付別のプロモーション・プランニング
 - プロモーション What-if
 - 変動支出。これらの計算では、変動コストが取得され、プロモーション期間数量に適用されます
 - プロモーション・プランニングの使用例
 - * 複数期間にまたがるプロモーション

- * 単一または複数製品のプロモーション
- * 期間内の同一製品に対する複数のプロモーション
- * 日付が重複している、同一製品に対する複数のプロモーション
- 製品別のアップリフトへの調整
- アップリフトおよび収益の取引経費サマリーおよび ROI
- 顧客の利益と損失
 - 顧客および製品グループ別
 - 収益およびアップリフト収益
 - 取引経費 – 変動および固定
 - COGS
 - 契約メジャー
- 分析
 - KPI とビジュアライゼーションのある概要ダッシュボード
 - 顧客/製品/テリトリ階層間のプロモーション数量および非プロモーション数量
 - キー・アカウント・サマリー

キー・アカウント・プランニングは、販売プランニングを取引プロモーション・マーケティング・キャンペーンと連携させて、売上高や収益を増大させます。キー・アカウント・プランニング:

- 取引プロモーションを含む、顧客および製品グループのデータ駆動型販売プランによって、予測の精度と信頼性を提供します。
- コラボレーションとアカウントビリティを育みます。
- 取引プロモーションの効果を分析することで、適切なプロモーション戦略を評価できるようにします。
- 異なるプロモーション戦略を評価するための what-if シナリオ・プランニングを提供します。
- 複数のスプレッドシートを管理する手間を軽減します。
- 堅牢なプランニング・プラットフォームおよび Sales Cloud との統合機能に基づく、拡張可能フレームワークを提供します。

目的	視聴
キー・アカウント・プランニングについてさらに学習します。	 概要: Sales Planning でのキー・アカウント・プランニング

Financial Consolidation and Close

Financial Consolidation and Close は、Oracle Cloud に構築されてデプロイされるサブスクリプション・ベースの連結およびレポート・ソリューションです。これにより、ハードウェアなしで IT サポートを最小限に抑えた高速な実装を希望するユーザーは、簡易で迅速なデプロイメントを実現できます。また、わかりやすい直感的なインタフェースとともに、連結および決算プロセス・タスクの組込み機能が提供されます。

Financial Consolidation and Close では、次の機能が提供されます。

- 簡略化されたタブレット・ユーザー・インターフェース
- ネイティブ・ダッシュボードおよび分析
- 詳細分析のために事前定義されたディメンション
- 組込みのフォームおよびレポートによる柔軟なアプリケーション構成
- 通貨換算および FX 調整計算
- 自動キャッシュ・フロー
- カスタマイズの必要性がほとんどない即時利用可能な動的計算
- 簡易監査のための簡略化された連結ディメンション
- 決算カレンダーのタスク管理およびワークフロー
- 補足スケジュール・データ管理

目的	視聴
Financial Consolidation and Close の概要の理解	 概要ツアー・ビデオ
連結および決算プロセスの開始	 スタート・ガイド・ビデオ

Tax Reporting の概要

Tax Reporting は、国および地域レベルでの当期税金および繰延税金を計算および分析し、財務および税金の決算処理を統合するトータルな税金ソリューションです。このアプリケーションは、GAAP および IFRS での法人税の会計基準に準拠するよう設計されています。

多国籍企業では、各地域の監査役がローカルの税法に従って当期および将来の税金を法的エンティティ・レベルで計算します。その後、これらの費用が国レベルに集約されます。一部の管轄において合算レベルでの納税申告となることがあり、集約レベルでの確認と承認が要求されます。Tax Reporting には、設定などを行わずにすぐに使用できるフォーム、ロジック、引当パッケージ、ワークフローおよび分析ダッシュボードが用意されており、税引当のソース取得、計算、管理および承認を行えます。アプリケーションは、税引当を目的とした企業のグローバルな税引当、有効税率、繰延税金を計算します。CbCR レポート(国別)を準備することもできます。

Tax Reporting は、税金自動化、データ収集、税引当計算、申告額の未払処理調整自動化、税金レポートおよび分析などの組織の税引当プロセスのすべてのステージを網羅しています。アプリケーションで管轄内のエンティティの有効税率および支払税金を計算し、会計帳簿とこれに伴う財務諸表開示を準備できます。

次のように、すべての納税準備アクティビティ(永久調整、一時差異および有効税率の確認など)に対して、論理的にグループ化された順次タスクを定義します。

- **国の税引当**パッケージを使用して、次の操作を実行します。
 - ダッシュボードを使用してエンティティの今年度および前年度の税金費用を確認し、法定および有効税率を確認します。
 - エンティティ固有の引当パッケージを使用して、現在および将来の税金費用と負債を特定します。

- 国または地域の引当パッケージの**法定有効税率**分析を使用して、税引前利益に対する支払済税金の有効レートを特定します。
- **地域の引当金**パッケージを使用して、米国の特定の州(地域)における既存および繰延の課税要件を特定して分析します。
- **繰延税金**を使用して将来の費用および負債を表示します。期末残高でドリル・ダウンし、今年度の増減、申告額の未払処理調整などの追加詳細にアクセスできます。
- **CbCR レポート**を使用して、株主資本利益率や従業員別収益などの要因を含め、各管轄にわたる税金費用を分析します。

目的	視聴
Tax Reporting についてさらに学習します。	 Tax Reporting プロセスの概要

Profitability and Cost Management

収益性を最大化するには、費用と収益を正確に測定して配賦し、管理する必要があります。**Profitability and Cost Management** は、製品、顧客、地域、支店などのビジネス・セグメントの収益性を計算するために必要な、費用および収益の配賦を管理します。これにより、費用分解、消費ベースの費用計算およびシナリオ再生を使用して、有効な計画および意思決定支援の収益性を測定できます。

Profitability and Cost Management ビジネス・プロセスは、次の 2 つの個別のアプリケーションとして使用できるようになりました:

- [Profitability and Cost Management について](#)
- [Enterprise Profitability and Cost Management](#)

Profitability and Cost Management で使用可能な機能のより最新の実装である **Enterprise Profitability and Cost Management** は、その他の Oracle Enterprise Performance Management Cloud コンポーネントとのシームレスな統合を提供します。

Profitability and Cost Management について

Profitability and Cost Management アプリケーション・モデルは、管理レポートの計算およびレポートの分野には豊富な経験を持つがスクリプト言語またはプログラミング言語には多くの経験を持たないアナリストが使用するために設計されています。

目的	視聴
Profitability and Cost Management についてさらに学習します。	 概要ツアー・ビデオ

Profitability and Cost Management アプリケーション・データは、マルチディメンショナル・データベースとリレーショナル・データベースの両方に格納されます。

Enterprise Profitability and Cost Management について

Enterprise Profitability and Cost Management は、**Profitability and Cost Management** の更新済バージョンです。これにより、これらの機能が、管理レポートの計算およびレポートの分野には豊富な経験を持つがスクリプト言語またはプログラミング言語には多くの経験を持たないアナリストに提供されます。

配賦モデルの構築

Enterprise Profitability and Cost Management は、配賦カスタム計算ルールの複雑なウォーターフォール・プロセスを構築するための、ポイント・アンド・クリック・モデリング・インタフェースを提供します。順序に従って制御されるモデルに編成された何百ものルールで構成される複雑なウォーターフォールは、多くの期間または予測範囲にわたってデータに適用できます。

計算プロセスの管理

Enterprise Profitability and Cost Management は、モデルのすべてまたは一部を実行したり、必要に応じて前回の実行の結果を逆仕訳する、単純なプロセス実行管理を提供します。完全な計算履歴を提供して、指定された任意の時点に対する、モデル・ロジック、計算結果およびパフォーマンス統計のレビューを支援します。

財務システムおよびプランニング・システムとの統合

Enterprise Profitability and Cost Management の柔軟な設計構造により、モデルで複数のソース・システムからのディメンションとデータを結合し、数多くの財務システムや運用システムからのデータをマージする必要があるレポートをサポートできます。Enterprise Profitability and Cost Management の設計の柔軟性および統合の機能を使用すると、数多くの財務システムやレポート・システムの配賦プロセスを、共通の機能的な配賦ハブに集約できます。

結果の透明性

ロジック変更、パフォーマンス統計およびルールごとの結果トラッキングについての計算監査レポートにより、完全な透明性が提供されます。Enterprise Profitability and Cost Management で使用可能な詳細なルール・トランザクション結果により、割り当てられた任意の値のソースをトレースできます。

目的	視聴
Enterprise Profitability and Cost Management の概要の取得。	 概要ツアー・ビデオ
Enterprise Profitability and Cost Management の開始	 機能概要ツアー
Enterprise Profitability and Cost Management のモデルとモデリングの学習	 概要ビデオ

Account Reconciliation

照合では、勘定科目の残高が正しいかどうかを確認し、企業の財務勘定が適正であることが保証されます。Oracle Account Reconciliation Cloud Service は、このプロセスを自動化し、企業のプロセスに関わるユーザーが効果的に協働できるようにすることでプロセスをより単純で短時間で済むものにします。

勘定科目残高はある時点で妥当で、ビジネスの状況は変わるため、照合が行われることが重要です。また、照合を行わなかった場合、企業は厳しい罰則を科せられます。

Account Reconciliation は、照合コンプライアンスとトランザクション照合という 2 つのモジュールで構成されます。

目的	視聴
Account Reconciliation についてさらに学習します。	 概要ツアー・ビデオ

照合コンプライアンス

照合コンプライアンスは、勘定科目照合プロセス(貸借対照表照合、連結システム照合および他の有効な照合プロセス)を管理するのに役立ちます。

照合は、ビジネスにとって理にかなっていればどのレベルでも実行できます。たとえば、ある照合は事業単位または会社コードで実行し、別の照合は部門レベルで実行することができます。管理者は、勘定科目残高を照合に割り当てるマッピング・ルールを作成し、残高がインポートされると、このルールに基づいて正しい照合に表示されるようにすることができます。

管理者は、照合対象の残高、勘定科目の説明、指示、期限日および完了日を含む照合リストを設定します。期限日が近付いていること、または照合が影響を受けることを他のユーザーに知らせる電子メール通知が送信されます。

トランザクション照合

トランザクション照合は Account Reconciliation の統合モジュールで、既存の照合コンプライアンスの機能セットを完璧に補完します。

トランザクション照合を使用することで、企業はボリュームが多く、たくさんの人手を要する照合の実行を自動化し、その結果を照合コンプライアンスの追跡機能にシームレスに統合できます。

この強力なモジュールによって、企業は照合の実行にかかる時間を節約できる一方、質を向上させ、リスクを低減できます。

Enterprise Data Management

Enterprise Data Management は、最新のアジャイル型データ管理アプリケーションです。これにより、企業では、アプリケーション固有のビジネス視点の管理、それら相互の変更制御、データ・セットの共有とマップによるクラウド・デプロイメントの促進、および信頼できる参照のシステムの構築を遂行できます。

ノート:

Enterprise Data Management は、Oracle Enterprise Data Management Cloud、スタンドアロン・クラウド・サービス、または Oracle Enterprise Performance Management Cloud 内のビジネス・プロセスとして使用できます。Oracle Enterprise Data Management Cloud は、EPM Cloud サブスクリプションとは別に購入されます。[Oracle Enterprise Data Management Cloud の概要](#)を参照してください。

Enterprise Data Management ビジネス・プロセスは、次の EPM Enterprise Cloud Service のサブスクリプションで使用できます:

- ホスティングされた従業員メトリック(レコード数の制限なし)

- ホスティングされた指定ユーザー・メトリック(最大 5,000 レコード)

レコード数は、ビジネス・ドメインごとにグループ化されたすべてのアプリケーションにわたる一意のノードの数を表します。ビジネス・ドメインは、企業がビジネス・アプリケーション間で実際のエンティティの論理グループとして共有するのに適しているとみなしたサブジェクト領域に対応します。このタイプは、ほとんどの企業でスタンドアロン Oracle Enterprise Data Management Cloud のサブスクリプションの機能プレビューを実行するのに十分なレコードを提供します。

目的

Enterprise Data Management の概要の把握

参照するビデオ



概要ツアー・ビデオ

Enterprise Data Management のユーザー・インタフェースの理解



概要: ユーザー・インタフェース・ツアー・ビデオ

Enterprise Data Management および Oracle Enterprise Data Management Cloud の機能

アプリケーションの操作

アプリケーション作成者は、接続された各ビジネス・アプリケーションを登録して、デフォルト・ビューと呼ばれるエンド・ユーザー・エクスペリエンスを生成します。登録時に、作成者は、他のユーザーをアプリケーション所有者またはデータ・マネージャとして割り当てられます。各ビューには、登録された各アプリケーション・ディメンションをリストまたは階層として管理するために最適化された 1 つ以上の視点が含まれます。コラボレーションのために、アプリケーション所有者とビュー所有者は、共同でカスタム・ビューおよび視点(たとえば、サブジェクト領域別、またはビジネス・ドメイン別)を調整して、変更管理ビューを作成できます。データ・マネージャは、各自の権限内で変更を適用できます。

ビューおよび視点の操作

ビューは、企業データに対するエンド・ユーザー・ポータルです。ビュー内または複数のビューに渡って視点を参照または検索します。ダーティ・ディメンション・データを元となるアプリケーションから視点にインポートして、問題を検証および解決し、信頼できる参照のシステムを構築します。視点を並べて比較し、差異を理解します。関連プロパティをビジュアル的に配置し、値をコピーします。要求を作成して複数の視点でデータを共有します。サブスクリプションを使用すると、ターゲット・ビューポイントをソース・ビューポイントにサブスクライブすることで、ビューポイント間でデータを共有できます。ソース・ビューポイントで更新が行われると、ターゲット・ビューポイントで同じ変更を行うための要求が自動的に生成されます。

要求を使用した変更の管理

要求は、変更の基礎的要素を表します。要求を使用して、任意の視点に対する変更をモデリングします。ターゲットの視点を基準としてすべての変更をビジュアル化し、それらを検証して影響を分析した後、それらをコミットします。作成者は、対話的に、またはファイル・ソースからのバッチで変更を行います。要求アクティビティを参照して、コミット済の変更を監査します。

コラボレーション・ワークフロー

コラボレーション・ワークフローは、発行プロセス、承認プロセスをサポートし、ガバナンスに関する次の課題に取り組みます。

- アプリケーション・レベル、ディメンション・レベル、階層セット・レベルまたはノード・タイプ・レベルで1つ以上の承認ポリシーを構成します。ワークフローでは、承認ポリシーの実行と同時に承認者の招待のオーケストレーションを行うことで、質の高い結果を達成します。
- 複数のビジネス・コンテキストにわたって要求ワークフローを実装して、複数のアプリケーションに関連する変更の承認を安全に行います。
- サブスクリプション要求による承認を使用して、複数のアプリケーション・コンテキストにわたってアプリケーション・ディメンションレベルのエンリッチメントおよび承認ステータスをシミュレーションします。
- 1つのリクエスト内に、検証、承認およびコミットされているアイテムをまとめて定義します。これにより、変更管理の整合性が取れ、変更制御が可能になります。

代替ビューおよび視点の作成

カスタム・ビューおよび視点を調整して、代替階層の作成、比較目的での読取り専用参照データへのアクセス、またはリスト内の階層メンバーの操作を行います。視点をコピーして、履歴スナップショットの作成、what-if シナリオの実行、または目的に沿ったデータの再編成を行います。

情報モデル

各視点は、関連するビジネス・オブジェクト(ノード・タイプを使用)、関連する親子関係(関係セットを使用)、および最上位ノードなどの関連する述語(ノード・セットを使用)を指定するデータ・チェーンによって強化され、最終的な用途のために構築されます。視点は、ビジネス・アプリケーションまたはサブジェクト領域を表すビュー内で論理的にグループ化されます。アプリケーション・ビューは、アプリケーション登録に基づいてデフォルト設定されます。

データ・マップの構築

新しいデータ・チェーンを作成して、マッピング関係を管理します。マッピング視点を作成して、1つ以上のソースを各ターゲット・アプリケーション・ディメンションにマップします。ソースとターゲットを比較して、アプリケーション間のデータ・マップを構築するための要求を作成します。データ・マップをエクスポートするため、ターゲット・ディメンションごとにマッピング・キーおよび場所を構成します。

アプリケーションの統合

事前定義されたアプリケーション登録を使用して、Oracle Enterprise Performance Management Cloud アプリケーション(Planning、Financial Consolidation and Close、E-Business Suite General Ledger、Oracle Financials Cloud General Ledger など)との統合を促進します。オープン・インタフェースを使用してカスタム・アプリケーション登録を活用し、他のすべてのビジネス・アプリケーションと統合します。オンボード・アプリケーションに対するウィザード・ドリブン型の構成操作を使用して、再利用可能な接続の確立、インポートおよびエクスポート操作の構成、および迅速なアプリケーション・メンテナンス目的での即時利用可能なアプリケーション固有のビューの作成を行うことができます。

タスクの自動化

タスクの自動化は、対話的に、または EPM 自動化を使用したスケジュール済プロセスを介して実行します。たとえば、サービス・インスタンス間での移行、ファイルのアップロードとダウンロード、環境のリセット、および環境の再作成を行います。

トランザクション履歴の監査

トランザクション履歴を監査して、ノード、プロパティおよび関係に対する経時的な変更を確認できます。要求がコミットされると、トランザクション履歴が記録されます。トランザクション履歴を表示、フィルタおよびファイルにダウンロードできます。

カスタム・ビジネス・ロジックの式

式は、特定のアプリケーションのノードに対してカスタム・ビジネス・ルールを定義するために使用されます。式を派生プロパティおよびプロパティ変換用に構成して、ビューポイントのノードのプロパティ値を計算できます。式は、パレットおよびエディタを使用してグラフィカルな方法で定義されます。

Oracle Enterprise Data Management Cloud の概要

Oracle Enterprise Data Management Cloud は、企業全体のマスター、参照およびメタデータに対する変更の管理および制御に役立ちます。ユーザーは、ビューポイントと呼ばれるポータルを介して企業データにアクセスし、リクエストを介して企業データ全体の変更を制御し、サブスクリプションを介して代替ビジネス・パースペクティブを同期し、親子関係および複雑なマルチディメンショナルの組合せを介してデータ・セットをマップします。

Oracle Enterprise Data Management Cloud を使用して、構造的改革を編成する信頼できる参照システムを構築します。これにより、ビジネス変革を加速し、合併と買収のリスクを排除し、信頼できるビジネス分析を振興し、標準への準拠を促進し、さらにビジネスの運営方法、パフォーマンスの測定方法および将来の計画の相互の整合性を構築します。

Oracle Enterprise Data Management Cloud はスタンドアロン・サービスです。EPM Enterprise Cloud Service の Enterprise Data Management ビジネス・プロセスとは異なりますが、ホスティングされた従業員およびホスティングされたレコード・メトリックを制限せずに同様の機能を提供します。詳細な概要は、[Enterprise Data Management](#) および [Oracle Enterprise Data Management Cloud の機能](#) を参照してください。

目的

Oracle Enterprise Data Management Cloud の概要の理解

Oracle Enterprise Data Management Cloud のユーザー・インタフェースの理解

参照するビデオ



概要ツアー・ビデオ



概要: ユーザー・インタフェース・ツアー・ビデオ

Narrative Reporting

Narrative Reporting は、管理およびナラティブ・レポート用の Oracle Cloud ソリューションです。これにより、財務および管理レポート・パッケージを定義、文書作成、確認および公開するためのセキュアでコラボレーティブなプロセス・ドリブン・アプローチが提供されます。また、Narrative Reporting では、マルチディメンショナル分析が提供され、ユーザーは、組込みの分析を通じてクラウドからのデータを格納、分析およびソーシングするか、ドキュメント・コンテンツを分析および文書作成するために独自の既存データ・ソースを使用するかを選択できます。

主な利点:

- **データと説明の結合:** レポート・パッケージおよびドックレットを使用して、文書作成、コラボレーション、コメントおよび配布ニーズに対応します。
- **セキュアなコラボレーション:** レポートの協力者には、その役割に基づいてコンテンツへのアクセス権が付与され、機密コンテンツの安全が保証されます。また、レポート所有者は、レポート・ライフサイクルの進行状況を確認できます。
- **信頼できるレポート:** データが信頼でき、正確であることを確信できる一方で、より迅速で正確なインサイトがすべての利害関係者に提供されます。

目的	視聴
Narrative Reporting についてさらに学習します。	 概要ツアー・ビデオ

EPM Cloud の URL

Oracle Enterprise Performance Management Cloud の新しいサブスクリプションは、Oracle Identity Cloud Service をデフォルトのアイデンティティ・ストアとして使用する Oracle Cloud Infrastructure でサポートされます。

Oracle Cloud Infrastructure: EPM Cloud は Oracle Fusion Cloud EPM のコンポーネントです。

Oracle Fusion Cloud EPM の最新バージョンは、Oracle Cloud Infrastructure (OCI)として知られています。OCI は、可用性の高い処理能力と基盤を EPM Cloud に提供します。初めてのお客様が購入した EPM Cloud の新しいサブスクリプションは OCI でサポートされます。OCI は、Oracle Fusion Cloud EPM Gen 2 または OCI (Gen 2)とも呼ばれています。

Oracle Cloud Classic: Oracle Cloud Classic は OCI の前身です。EPM Cloud の多くのお客様は、Oracle Cloud Classic でサポートされます。

各 EPM Cloud 環境にアクセスするには、一意の URL を使用します。サービス管理者は、これらの URL をユーザーに提供します。

- [クラシック EPM Cloud の URL](#)
- [OCI EPM Cloud の URL](#)

クラシック EPM Cloud の URL

一般に、アプリケーション・コンテキストに加えて、新しくプロビジョニングされた Oracle Enterprise Performance Management Cloud 環境の URL は、次のコンポーネントを識別します:

- **サービス名:** これは自動生成される文字列で、EPM Cloud サブスクリプションのオーダー時に割り当てられます。テスト環境と本番環境を区別するために、-test が追加されて、テスト環境に一意のサービス名が作成されます。
- **アイデンティティ・ドメイン名:** これは、サブスクリプションにサービスを提供するアイデンティティ・ドメインの名前です。この名前は自動生成されます。
- **EPM Cloud ファミリ:** これは次のいずれかです:

- 従来の Planning and Budgeting Cloud、Enterprise Planning and Budgeting Cloud、Oracle Tax Reporting Cloud および Oracle Financial Consolidation and Close Cloud 環境の場合は、pbcs。
- EPM Standard Cloud Service および EPM Enterprise Cloud Service インスタンスの場合は、epm。この EPM Cloud ファミリは、従来の Profitability and Cost Management cloud、Account Reconciliation Cloud、Oracle Enterprise Data Management Cloud および Enterprise Performance Reporting Cloud インスタンスの URL でも使用されます。これは、Planning and Budgeting Cloud、Enterprise Planning and Budgeting Cloud、Oracle Tax Reporting Cloud および Oracle Financial Consolidation and Close Cloud の新規にプロビジョニングされた従来のインスタンスの URL にも使用されます。
- データ・センター領域: これは、EPM Cloud インスタンスをホストするデータ・センターがある領域です。これは領域名ではありませんが、たとえば us1 などのデータ・センター領域の指定子です。

新規 URL パターン:

本番環境の URL パターン: `https://epm-idDomain.epm.dataCenterRegion.oraclecloud.com/epmcloud`

テスト環境の URL パターン: `https://epm-test-idDomain.epm.dataCenterRegion.oraclecloud.com/epmcloud`

たとえば、exampleDC データ・センター領域のアイデンティティ・ドメイン exampleDoM でプロビジョニングされた EPM Cloud 環境では、URL は次のようになります。

本番環境: `https://epm-exampleDoM.epm.exampleDC.oraclecloud.com/epmcloud`

テスト環境: `https://epm-test-exampleDoM.epm.exampleDC.oraclecloud.com/epmcloud`

既存のお客様が新規に購入したサブスクリプションを含め、新しいサブスクリプションは、この URL パターンを使用するように構成されます。

従来の URL に対する影響

古い従来の URL を引き続き使用することも、環境に自動的にリダイレクトされる新しい URL に切り替えることもできます。

既存のユーザーの場合は、URL をこの新しいアプリケーション・コンテキストで更新できます。たとえば、従来の URL が `https://example-idDomain.pbcs.dom1.oraclecloud.com/HyperionPlanning` の場合、次のように更新できます。

`https://example-idDomain.pbcs.dom1.oraclecloud.com/epmcloud`

従来の URL の更新は必須ではなく、環境へのアクセスにも使用できます。

サンプル URL

Planning

- `https://example-idDomain.pbcs.dom1.oraclecloud.com/HyperionPlanning`
- `https://example-idDomain.pbcs.dom1.oraclecloud.com/workspace/index.jsp`

Planning モジュールおよび Financial Consolidation and Close

<https://example-idDomain.pbcs.dom1.oraclecloud.com/HyperionPlanning>

Tax Reporting

<https://example-idDomain.pbcs.dom1.oraclecloud.com/workspace>

Profitability and Cost Management、Account Reconciliation、Oracle Enterprise Data Management Cloud および Narrative Reporting

<https://example-idDomain.epm.dom1.oraclecloud.com/epm>

Account Reconciliation

<https://example-idDomain.epm.dom1.oraclecloud.com/arm>

OCI EPM Cloud の URL

OCI 環境では、次の URL パターンが使用されます:

`https://CLOUD_INSTANCE_NAME-
CLOUD_ACCOUNT_NAME.SERVICE.DATA_CENTER_REGION.DOMAIN/CONTEXT`

URL は、次のコンポーネントで構成されます:

- **Cloud インスタンス名:** インスタンス名(例: acme)。テスト環境と本番環境を区別するために、テスト環境に `-test` が追加されて一意のインスタンス名が作成されます。
- **クラウド・アカウント名:** これは、**Oracle Fusion Cloud EPM** アカウントの作成時に使用される名前です(例: `epmidm`)。以前はアイデンティティ・ドメイン名と呼ばれていました。
- **Oracle Fusion Cloud EPM サービス:** これは `epm` に設定されます。
- **データ・センター領域:** これは、**Oracle Enterprise Performance Management Cloud** をホストするデータ・センターがある領域です(例: `us-phoenix-1`)。
- **Oracle Fusion Cloud EPM ドメイン:** **Oracle Fusion Cloud EPM** をホストするドメインです(例: `ocs.oraclecloud.com`)。
- **アプリケーション・コンテキスト:** これは `epmcloud` に設定されます

前述の説明にあるサンプルの設定を使用すると、URL は次のようになります:

本番環境: <https://acme-epmidm.epm.us-phoenix-1.ocs.oraclecloud.com/epmcloud>

テスト環境: <https://acme-test-epmidm.epm.us-phoenix-1.ocs.oraclecloud.com/epmcloud>

情報ソース

これらのドキュメントには、**Oracle Enterprise Performance Management Cloud** コンポーネントのタスクの実行に関する情報が含まれます。

表 2-1 EPM Cloud ユーザー用の情報ソース

ドキュメント・タイトル	説明
<i>Planning</i> の操作	Planning でタスクを実行する方法について説明します。

表 2-1 (続き) EPM Cloud ユーザー用の情報ソース

ドキュメント・タイトル	説明
<i>Planning</i> モジュールの操作	<i>Planning</i> モジュールで実行できるタスクの情報を提供します。
フリーフォームの操作	フリーフォームアプリケーションでタスクを実行する方法について説明します。
<i>Sales Planning</i> の操作	<i>Sales Planning</i> の操作方法について説明します。
<i>Strategic Workforce Planning</i> の管理および操作	<i>Strategic Workforce Planning</i> の構成と管理、およびタスクの完了方法について説明します。
<i>Oracle Smart View for Office</i> ユーザーズ・ガイド	<i>Oracle Smart View for Office</i> を使用して EPM Cloud サービスと対話する方法について説明します。
<i>Smart View</i> での <i>Strategic Modeling</i> の使用	<i>Smart View</i> を使用して財務モデルを作成および管理する方法について説明します。
<i>Smart View</i> での予測プランニングの操作	予測プランニングおよび <i>Smart View</i> の拡張機能を使用して、履歴データに基づいてパフォーマンスを予測する方法について説明します。
<i>Financial Consolidation and Close</i> の操作	<i>Financial Consolidation and Close</i> を使用してタスクを実行する方法に関する情報が含まれます。
<i>Oracle Enterprise Performance Management Cloud Financial Reporting</i> の操作	<i>Financial Reporting</i> を設定して財務レポートを作成する方法、およびレポートを参照して対話する方法について説明します。
<i>Profitability and Cost Management</i> の操作	<i>Profitability and Cost Management</i> を使用して、配賦と計算や、アプリケーション検証のための残高ルールの実行などのタスクを完了する方法について説明します。
<i>Account Reconciliation</i> を使用した勘定科目の照合	<i>Account Reconciliation</i> の照合コンプライアンスおよびトランザクション照合機能を使用して、勘定科目を照合する手順について説明します。
<i>Tax Reporting</i> の操作	<i>Tax Reporting</i> でタスクを実行して、財務データを使用した連邦および地方レベルでの当期税金と繰延税金の計算、レポートおよび承認を行い、 <i>US GAAP</i> や <i>IFRS</i> レポートなどの会計基準に準拠する方法について説明します。
<i>Oracle Enterprise Data Management Cloud</i> の管理および操作	<i>Oracle Enterprise Data Management Cloud</i> を使用してすべての企業データを管理し、ビジネス・パースペクティブを操作する方法について説明します。
<i>Narrative Reporting</i> のレポート・パッケージの作成および管理	財務および管理レポートを定義、文書作成、確認および公開するためのセキュアでコラボレーティブなプロセス・ドリブン・アプローチを提供するレポート・パッケージを文書作成および管理する際のタスクについて説明します。
<i>Strategic Workforce Planning</i> の管理および操作	<i>Strategic Workforce Planning</i> を使用してタスクを完了する方法について説明します。
<i>Narrative Reporting</i> ドックレットの文書作成および承認	<i>Narrative Reporting</i> および <i>Smart View</i> を使用してドックレットを文書作成および承認する方法について説明します。
<i>Narrative Reporting</i> でのレポート・パッケージの確認、署名および受信	<i>Narrative Reporting</i> および <i>Smart View</i> を使用してレポート・パッケージを確認および署名する方法に関する情報が含まれます。
<i>Oracle Enterprise Performance Management Cloud</i> レポートの操作	管理レポートを使用して EPM Cloud 財務および管理レポートを作成する方法について説明します。
<i>Narrative Reporting Disclosure Management</i> の操作	<i>Disclosure Management</i> を操作して、規制機関に提出する <i>Extensible Business Reporting Language (XBRL(c))</i> タグが付けられた提出物 (SEC に提出する 10K や 10Q など) をグラフィカルに作成および編集する際に役立ちます。

Oracle Cloud Help Center

Oracle Cloud Help Center は、Oracle Enterprise Performance Management Cloud の最新のドキュメント、ヘルプ・トピックおよびビデオにアクセスするためのハブです。

[Cloud Help Center](#) では、ドキュメント、ビデオ、チュートリアルなどの様々なソースからユーザー支援を利用できます。通常、Cloud Help Center は毎月第1金曜日に更新されます。

サービス固有のライブラリ

サービスの最新のドキュメントを含むサービス固有のライブラリにアクセスするには、Oracle Cloud Help Center の「**Enterprise Performance Management**」セクションのサービス名をクリックします。

使用可能なユーザー支援資産

サービス固有のライブラリから使用できるユーザー支援には、次のものがあります：

- **ビデオ:** 「**ビデオ**」をクリックして、概要情報およびアプリケーション機能を使用するための手順が提供されるビデオにアクセスします
- **ブック:** ナビゲーション・ペインで「**ブック**」をクリックして、最新の英語のドキュメントを表示します。
- **翻訳されたブック:** ナビゲーション・ペインで**翻訳されたブック**をクリックして、使用可能なローカライズされたオンライン・ヘルプおよびドキュメントを表示します。
- **チュートリアル:** 「**チュートリアル**」をクリックして、トピックを学ぶための手順(学習パスと Oracle by Example)を把握します。

目的	参照するビデオ
使用可能な EPM Cloud ユーザー支援資産について学習	 概要ツアー・ビデオ
EPM Cloud ヘルプ・センターを学習した回答、詳細および最新情報の取得	 概要ツアー・ビデオ

Oracle Learning Library

Oracle Learning Library は、オラクル社の対象トピックのエキスパートによって開発された無償の学習コンテンツを専用で提供しています。

[Oracle Learning Library](#) の検索機能を使用して、チュートリアル、概要ビデオや Oracle by Example (OBE)チュートリアルなどを検索します。

EPM Cloud ローカライゼーションの理解

Oracle Enterprise Performance Management Cloud のユーザー・インターフェース、オンライン・ヘルプおよびガイドは、様々な言語で利用できます。

ユーザー・インターフェース

一般的に、EPM Cloud ユーザー・インターフェースは、アラビア語、デンマーク語、ドイツ語、スペイン語、フィンランド語、フランス語、フランス語(カナダ)、イタリア語、日本語、韓国

語、オランダ語、ノルウェー語、ポーランド語、ポルトガル語(ブラジル)、ロシア語、スウェーデン語、トルコ語、簡体字中国語および繁体字中国語に翻訳されています。

例外:

- **Profitability and Cost Management** ユーザー・インタフェースは、アラビア語とノルウェー語に翻訳されていません。
- **Account Reconciliation** および **Oracle Enterprise Data Management Cloud** ユーザー・インタフェースは、追加の言語(チェコ語、ヘブライ語、ハンガリー語、ルーマニア語およびタイ語)に翻訳されています。
- **Oracle Smart View for Office** ユーザー・インタフェースは、追加の言語(チェコ語、ギリシャ語、ヘブライ語、ハンガリー語、ポルトガル語、ルーマニア語、スロバキア語およびタイ語)に翻訳されています
- **Oracle Digital Assistant for Enterprise Performance Management** ユーザー・インタフェースは、英語でのみ使用できます。

 **ノート:**

ユーザー・インタフェースおよびオンライン・ヘルプに表示される言語を変更するには、次を参照してください。

- ローカライズ版のサービス用の [Firefox の構成](#)
- ローカライズ版のサービス用の [Google Chrome の構成](#)

Smart View のローカライズ版を表示する方法の詳細は、*Oracle Smart View for Office ユーザーズ・ガイド*の翻訳の情報を参照してください。

オンライン・ヘルプおよびガイド

オンライン・ヘルプおよびガイドは、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語(ブラジル)、日本語、韓国語、繁体字中国語および簡体字中国語に翻訳されています。Smart View のドキュメントは、オランダ語にも翻訳されています。

翻訳されたオンライン・ヘルプおよびガイドは、2023年9月1日までのすべての機能をカバーしていますが、*Oracle Smart View for Office ユーザーズ・ガイド*は例外で、2023年5月5日までのすべての機能をカバーしています。

英語のオンライン・ヘルプおよびガイドには、すべての機能に関する最新情報が含まれています。

サンプル・アプリケーションおよびデモ

EPM Cloud のサンプル・アプリケーション、デモおよびデータは、英語専用です。

ビデオ

概要ビデオの字幕は、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語(ブラジル)、日本語、韓国語、繁体字中国語、簡体字中国語に翻訳されています。

チュートリアル・ビデオの字幕は翻訳されていません

3

EPM Cloud の設定およびアクセス

この項の内容:

- [EPM Cloud のブラウザの設定](#)
- [EPM Cloud へのアクセス](#)
- [ホーム・ページ](#)
- [パスワードの変更](#)
- [Oracle Cloud Customer Connect への参加](#)
- [アクセシビリティ・モードの有効化](#)

EPM Cloud のブラウザの設定

- [サポートされているブラウザ](#)
 - [ローカライズ版のサービス用の Google Chrome の構成](#)
 - [Microsoft Edge の構成](#)
 - [Firefox の構成](#)
 - [ローカライズ版のサービス用の Firefox の構成](#)
- [最小画面解像度](#)

サポートされているブラウザ

Oracle Enterprise Performance Management Cloud 向けにサポートされ、推奨されているブラウザが表示されます。

Oracle サポート・ポリシーに準拠するためには、EPM Cloud にアクセスするときに、サポートされているブラウザを使用する必要があります。[Oracle ソフトウェア Web ブラウザ・サポート・ポリシー](#)を参照してください。

表 3-1 各クライアントのプラットフォームにサポートされているブラウザ

クライアント・プラットフォーム	推奨ブラウザ	他のサポートされているブラウザ
Microsoft Windows	Google Chrome	Firefox ESR Microsoft Edge バージョン 80 以上
Apple Mac OS X	Google Chrome	Safari、Firefox ESR
Linux (すべてのバージョン)	Google Chrome	Firefox ESR
iOS *	Safari	なし
Android *	Google Chrome	なし

表 3-1 (続き) 各クライアントのプラットフォームにサポートされているブラウザ

クライアント・プラットフォーム 推奨ブラウザ	他のサポートされているブラウザ
* iPad および Android モバイル・デバイスでは、ブラウザベースの操作のみがサポートされています。ブラウザベースの操作は電話ではサポートされていません。	

サービスにアクセスするには、ブラウザを次のように構成する必要があります。

- oraclecloud.com および cloud.oracle.com からの Cookie の受入れ。デフォルトでは、ブラウザは Web サイトから Cookie を受け入れるように設定されています。ブラウザがサイトからの Cookie を受け入れないように構成されている場合は、これらのサイトに対するセッションごとの、または永続的な例外を許可する必要があります
- oraclecloud.com および cloud.oracle.com からのポップアップ・ウィンドウの許可

複数のブラウザ・タブまたはブラウザ・インスタンスの使用

EPM Cloud ビジネス・プロセスでは、ユーザーごとに一意のブラウザ・セッションを維持する必要があります。さらに、EPM Cloud は、ブラウザ・セッションでダッシュボードのインスタンスを 1 つのみサポートします。

たとえば、2 つのタブがある Chrome ウィンドウや、同じブラウザの複数のインスタンス(2 つの Chrome ウィンドウ)など、同じマシンで同時に複数のセッションをオープンしていると、ビジネス・プロセスが正しくリフレッシュされない場合があります。同じコンピュータまたは異なるコンピュータから同じユーザー ID を使用して複数の同時操作を行うと、予期しない動作が発生する可能性があります。

Firefox、Chrome または Edge ブラウザでは、「**タブを複製**」コマンドを使用して現在のタブの別のインスタンスを生成できます。このコマンドを使用してビジネス・プロセスの現在の表示を複製することはお勧めしません。EPM Cloud ビジネス・プロセスでエラーが表示される可能性があります。

ローカライズ版のサービス用の Google Chrome の構成

ブラウザのデフォルト言語以外の言語でサービスにアクセスするには、Google Chrome の言語設定を更新します。サービスで使用可能な言語のリストは、[EPM Cloud ローカライゼーションの理解](#)を参照してください。

新しいロケールに対して Chrome を再構成するには:

1. Google Chrome で、次の URL にナビゲートして「Settings」にアクセスします:
chrome://settings/
2. 「Settings」、「Advanced」、「Languages」の順にクリックします。
3. 「Language」ドロップダウン・リストから、「Add Languages」を選択します。
4. 「Add Languages」でサービスの表示言語を選択し、「ADD」をクリックします。
5. 前のステップで追加したサービスの表示言語の横にある「More actions」をクリックし、「Display Google Chrome in this Language」を選択します。
6. 「RELAUNCH」をクリックします。

選択した言語で Google Chrome が再起動されます。

Microsoft Edge の構成

Microsoft Edge のデフォルト言語以外の言語で Oracle Enterprise Performance Management Cloud にアクセスするには、ブラウザの言語設定を更新します。

全般設定

JavaScript、Cookie およびポップアップを許可するように Microsoft Edge が構成されていることを確認します。これらはデフォルトで許可されています。

- 組織でデフォルトの設定が許可されていない場合、許可されるサイトとして *.oraclecloud.com を追加してください。URL `edge://settings/content/javascript` を入力して、現在の JavaScript 設定を表示できます
- ポップアップがブロックされる場合、許可されるサイトとして *.oraclecloud.com を追加してください。URL `edge://settings/content/popups` を入力して、現在のポップアップ設定を表示できます
- Cookie の使用がブロックされる場合、Cookie にアクセスできるサイトとして *.oraclecloud.com を追加してください。URL `edge://settings/content/cookies` を入力して、現在の Cookie 設定を表示できます

ローカライズ版のサービス用の Microsoft Edge の構成

サービスで使用可能な言語のリストは、[EPM Cloud ローカライゼーションの理解](#)を参照してください。

新しいロケールに対して Microsoft Edge を構成するには:

1. Microsoft Edge ブラウザを開いて次の URL を入力します
`edge://settings/languages`
2. 使用するロケールが「優先する言語」にリストされていない場合、「言語を追加する」をクリックしてそのロケールを追加します。
3. 「優先する言語」の下で、Microsoft Edge で使用するロケールの行の... (その他の操作)をクリックし、「Microsoft Edge をこの言語で表示」を選択します。
4. 「再起動」をクリックします。

Firefox の構成

Firefox を構成するには、Oracle Enterprise Performance Management Cloud のポップアップを有効にして、プライバシー設定を変更します。

Firefox はデフォルトで Web サイトからの Cookie を受け入れるように構成されます。ブラウザがサイトからの Cookie を受け入れないように構成されている場合は、cloud.oracle.com および oraclecloud.com に対するセッションごとの、または永続的な例外を許可する必要があります。また、Firefox でこれらの Web サイトからのポップアップ・ウィンドウが開くように設定する必要があります。

Firefox で Cookie を受け入れてポップアップを有効化するように構成するには:

1. Firefox を起動します

2. 「ツール」、「オプション」、「プライバシー」の順に選択します。
3. 「Firefox に」フィールドの設定を確認します。
 - 値が「履歴を記憶させる」または「履歴を一切記憶させない」に設定されている場合、ブラウザではデフォルト設定を使用してサービスが正しく表示されます。
 - 値が「記憶させる履歴を詳細設定する」に設定されている場合:
 - 「サイトから送られてきた Cookie を保存する」チェック・ボックスが選択されていることを確認します(選択済)。
 - 「例外サイト」をクリックして、次の Web サイトによる Cookie の設定を阻止する例外を削除します。
 - * cloud.oracle.com
 - * oraclecloud.com

「サイトから送られてきた Cookie を保存する」チェック・ボックスが選択されていない場合は、次のステップを完了します。

 - a. 「例外サイト」をクリックします。
 - b. 「サイトのアドレス」で、cloud.oracle.com を入力してから、プライバシー・ポリシーに応じて「許可」または「現在のセッションのみ」をクリックします。
 - c. ステップ 3.b を繰り返して、oraclecloud.com を追加します。
 - d. 「変更を保存」をクリックします。
4. cloud.oracle.com および oraclecloud.com からのポップアップ・ウィンドウを有効化し、オプションで、ページごとに独自のフォントを選択できるようにします。
 - a. 「コンテンツ」をクリックします。
 - b. 「ポップアップウィンドウをブロックする」が選択されている場合(選択済)、「許可サイト」をクリックします。
 - c. 「サイトのアドレス」で、oraclecloud.com を入力してから、「許可」をクリックします。
 - d. 「サイトのアドレス」で、cloud.oracle.com を入力してから、「許可」をクリックします。
 - e. 「変更を保存」をクリックします。
 - f. **Narrative Reporting の場合のみ:** ページごとに独自のフォントを選択できるようにします。
 - i. 「フォントと配色」の「詳細設定」をクリックします。
 - ii. 「Web ページが指定したフォントを優先する」を選択します。
 - iii. 「OK」をクリックします。

ローカライズ版のサービス用の Firefox の構成

Firefox のデフォルト言語以外の言語で Oracle Enterprise Performance Management Cloud にアクセスするには、ブラウザの言語設定を更新します。

サービスで使用可能な言語のリストは、[EPM Cloud ローカライゼーションの理解](#)を参照してください。

ノート:

Narrative Reporting は、優先ロケールを設定することでブラウザのロケールをオーバーライドできます。詳細は、[Narrative Reporting の管理](#)のユーザー・プリファレンスの管理を参照してください。

言語設定を変更するには:

1. Firefox で「ツール」、「オプション」の順に選択します。
2. 「コンテンツ」をクリックし、「コンテンツ」ページを開きます。
3. 「言語」の隣の「選択」をクリックします。
4. オプション: 使用したい言語が「言語」にリストされていない場合、次のステップを使用して追加します。
 - a. 「言語」で「追加する言語を選択...」をクリックします。
 - b. 希望の言語を選択し、「追加」をクリックします。
5. 希望の言語をクリックし、「上へ」をクリックしてリストの一番上に移動します。
6. 「OK」をクリックします。

最小画面解像度

表示装置の画面解像度が 1024 x 768 以上に設定されていることを確認してください。

EPM Cloud へのアクセス

環境には、Oracle Fusion Cloud EPM またはシングル・サインオン資格証明を使用してアクセスできます。

- Oracle Enterprise Performance Management Cloud 資格証明。[EPM Cloud 資格証明を使用した認証](#)を参照してください。
- ネットワーク資格証明(組織でシングル・サインオン(SSO)アクセスを構成している場合)。[シングル・サインオン資格証明を使用した認証](#)を参照してください。

EPM Cloud 資格証明を使用した認証

最初にログインしたら、ユーザー名および一時パスワードについて、Oracle Fusion Cloud EPM 管理者(oraclecloudadmin_ww@oracle.com)からの電子メールを確認してくださ

い。サービスにアクセスするための URL については、サービス管理者からの電子メールを確認してください。

サービスにアクセスするには、次の情報が必要です。

- Oracle Fusion Cloud EPM 環境の URL
- ユーザー名
- パスワード

環境にアクセスするには:

1. Oracle Enterprise Performance Management Cloud 環境の URL に移動します。
2. ユーザー名とパスワードを入力します。
3. 「サインイン」をクリックします。

デフォルトのパスワードをすでにリセットしている場合、ホーム・ページが表示されます。

サービスに初めてアクセスする場合、パスワードのパーソナライズに役立つ「パスワード管理」画面が表示されます。

- a. 「旧パスワード」で、Oracle Fusion Cloud EPM 管理者 (oraclecloudadmin_ww@oracle.com)からの電子メールで受け取った一時パスワードを入力します。
- b. 「新パスワード」および「パスワードの再入力」で、画面上に表示されたパスワード・ポリシーに準拠する新パスワードを入力します。
- c. 「アカウントのチャレンジ質問の登録」で、チャレンジ質問とその回答を選択します。これは、パスワードを忘れた場合にパスワードを取得するために使用されます。
- d. 「送信」をクリックします。

シングル・サインオン資格証明を使用した認証

サインインのプロセスは、組織の SSO 構成によって決定されます。IWA を使用する設定の場合、Oracle Enterprise Performance Management Cloud URL へのアクセス時に、SSO プロセスではユーザー名とパスワードの指定を求められないことがあります。

SSO 資格証明を使用して環境にアクセスするには:

1. EPM Cloud 環境の URL に移動します。
2. 「会社サインイン」をクリックします。

ノート:

SSO 対応環境では、**会社サインイン**が、ほとんどのユーザーが使用できる唯一のオプションです。サービス管理者および Account Reconciliation パワー・ユーザーは、そのアカウントが EPM 自動化などの EPM Cloud クライアント・コンポーネントを実行するように構成されており、従来型クラウド・アカウントを使用してサインインするための追加オプションが表示されます。

IWA を使用する設定の場合、サービスのランディング・ページが表示されます。それ以外の場合、ログイン画面が表示されます。

3. サインイン画面が表示されたら、組織のネットワーク・リソースにアクセスするために使用するユーザー名とパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

ホーム・ページ

環境にサインインすると、その環境内で実行できるアクティビティをグループ化したカードを含むホーム・ページが表示されます。カードは、主なタスク、チュートリアルおよび関連情報へのアクセスを提供します。カードをクリックすると、使用可能なショートカットを含むページが開きます。ページのショートカットを使用できるかどうかは、環境内のユーザーの役割に応じて異なります。

サービス固有のカードに加え、ホーム・ページには、次の一般的なパネル、カードおよびアイコンが表示されます。

「ようこそ」パネル

「ようこそ」パネルでは、メッセージなどの主要情報や自分に割り当てられているタスクに迅速にアクセスできます。「ようこそ」パネルの表示内容は、サービスごとに異なります。

アカデミ

「アカデミ」をクリックすると、サービスを理解および操作するための様々なリソースにアクセスできます。利用可能なリソースには、ビデオ概要、チュートリアル、および主なタスクの情報が含まれます。

ナビゲータ

 をクリックすると、通常はホーム・ページに表示されたカードからアクセスできる機能を反映したショートカットのリストが開かれます。

「設定およびアクション」メニュー

画面の右上隅にあるユーザー名をクリックすると、「設定およびアクション」が表示されます。このメニューで使用可能なオプションは、ユーザーの役割ごとに異なります。一般的に、このメニューを使用して、オンライン・ヘルプ、フィードバックの提供ユーティリティ、「ダウンロード」ページおよび Oracle サポートの Web サイトにアクセスし、環境からサインアウトします。

また、メンバーが共通の目的と目標に基づいてインタラクションおよびコラボレーションを行うためのコミュニティの集合場所である Oracle Cloud Customer Connect にも、「設定およびアクション」からアクセスできます。[Oracle Cloud Customer Connect への参加](#)を参照してください。

「アクセシビリティ設定」アイコン

 をクリックすると、アクセシビリティ設定を指定して、スクリーン・リーダーや高コントラスト設定を有効化できます。

「ホーム」アイコン

 をクリックすると、ホーム・ページに戻ります。

バーの表示/非表示

バーの表示/非表示  は、ホーム・ページでカードからオプションを選択してから切り替えられます。クリックすると、現在のカードの内容の表示と非表示が切り替わります。

パスワードの変更

初ログイン時に、パスワードをパーソナライズし、パスワードを忘れた場合に取得するためのチャレンジ質問への回答を設定するよう求められます。後で、マイ・サービス・アプリケーションのマイ・プロフィール・ページからパスワードをリセットし、チャレンジ質問および回答を変更することができます。

クラシック環境の場合、ユーザーは定期的にパスワードを変更する必要があります。[Oracle Cloud アプリケーション・スタート・ガイドの従来のクラウド・アカウント・パスワードの管理](#) を参照してください。

OCI (Gen 2)環境は、企業標準にあわせてパスワード・ポリシーを設定するよう構成できます。[Oracle Identity Cloud Service の管理](#)で、次を参照してください：

- [Oracle Identity Cloud Service のパスワード・ポリシーの管理](#)
- [パスワードの変更](#)

アイデンティティ・プロバイダを使用するシングル・サインオン向けに構成された環境では、「**会社のサインイン**」オプションを使用して環境にサインインするためのパスワード・ポリシーが、アイデンティティ・プロバイダで定義されています。

パスワードを変更するには：

1. ブラウザで、パスワードを変更する **Oracle Enterprise Performance Management Cloud** 環境の URL を入力します。パスワードの変更は、テスト環境および実稼働環境でのパスワードに影響します。
2. 「**アカウントにアクセスできない場合**」をクリックし、「**パスワード忘れ**」画面を開きます。
3. 「**ユーザー名**」で、john.doe@example.com などのユーザー ID を入力します。
4. 「**アイデンティティ・ドメイン**」に、環境のアイデンティティ・ドメインを入力します。
5. 「**次**」をクリックします。
6. チャレンジの質問に答えて、「**次**」をクリックします。
7. 「**新パスワードの入力**」と「**新パスワードの再入力**」に、新しいパスワードを入力します。
8. 「**保存**」をクリックします。

Oracle Cloud Customer Connect への参加

カスタマ・コネクトは、メンバーが共通の目標や目的に関するやり取りやコラボレーションのために集まるコミュニティです。ここで、最新のリリース情報、ディスカッション・フォーラム、近日中に行われるイベント、ユースケースの質問に対する回答を参照できます。参加にはほんの数分しかかかりません。今すぐ参加して、通知に登録してください。

カスタマ・コネクトに参加するには:

1. <https://community.oracle.com/customerconnect/>にアクセスし、右上にある「登録」を選択します。
2. 参加してログインしたら、クラウド・カスタマ・コネクトのホーム・ページからフォーラム(カテゴリ)にアクセスします。「カテゴリ」、**Enterprise Resource Planning**の順に選択し、「**Enterprise Performance Management**」で選択を行います。

常に情報を把握できるようにするには、**EPMのお知らせ**およびフォローしている各カテゴリの通知プリファレンスを設定していることを確認します。

1. EPMのお知らせの通知プリファレンスを設定するには、「カテゴリ」、「お知らせ」、「**Enterprise Performance Management**」に移動します。
2. **通知プリファレンス**を選択し、プリファレンスを設定します。
3. 各カテゴリの通知プリファレンスを設定するには、カテゴリ・ページにナビゲートし、**通知プリファレンス・ドロップ・ダウン**を選択します。各カテゴリ・ページに個別に移動して、**通知プリファレンス・ドロップ・ダウン**を選択し、プリファレンスを設定する必要があります。

 **Note:**

「設定およびアクション」メニューには、クラウド・カスタマ・コネクトへのリンクが含まれます。ホーム・ページからクラウド・カスタマ・コネクトを開くには、ユーザー名の隣にある下矢印をクリックし、「クラウド・カスタマ・コネクト」を選択します。

アクセシビリティ・モードの有効化

Oracle Enterprise Data Management Cloud はデフォルトで高いアクセシビリティを備えているため、アクセシビリティ・モードを有効にする必要はありません。その他のすべてのビジネス・プロセスについて、ユーザーはアクセシビリティ・モードを有効にできます。

詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud* アクセシビリティ・ガイドのアクセシビリティの有効化を参照してください。

4

EPM Cloud コンポーネントの操作

Oracle Enterprise Performance Management Cloud クライアント・コンポーネントには、Oracle Smart View for Office、EPM 自動化および Financial Reporting が含まれます。

この項の内容:

- [使用可能なクライアントおよびユーティリティ](#)
- [Smart View および Calculation Manager を使用するサービス](#)
- [クライアントのダウンロードおよびインストール](#)
- [Smart View を使用したサービスへのアクセス](#)
- [Financial Reporting Web Studio を使用したサービスへのアクセス](#)

使用可能なクライアントおよびユーティリティ

役割に応じて、次の Oracle Enterprise Performance Management Cloud のコンポーネント、ユーティリティおよびテンプレートをダウンロードできます。

- [Account Reconciliation](#)
- [Enterprise Profitability and Cost Management](#)
- [Financial Consolidation and Close および Tax Reporting](#)
- [Narrative Reporting](#)
- [Planning、Planning モジュールおよびフリーフォーム](#)
- [Profitability and Cost Management](#)
- [Oracle Enterprise Data Management Cloud](#)
- [Sales Planning](#)
- [Strategic Workforce Planning](#)

パワー・ユーザーとユーザーのクライアントおよびユーティリティ

これは、EPM Cloud サブスクリプションから使用可能なすべてのクライアントおよびユーティリティのリストです。

- **EPM 自動化** - サービス管理者は、コマンド・ウィンドウを介して環境にアクセスし、アプリケーションのエクスポートや、エクスポートされたアプリケーションのデスクトップへのダウンロードなどのビジネス・アクティビティを自動化できます。詳細は、[Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作の EPM 自動化ユーティリティ](#)についてを参照してください。
- **Oracle Smart View for Office** - EPM Cloud 専用に設計された Microsoft Office 共通インタフェースを提供します。

ノート:

ブラウザベース・バージョンの Excel 365 および Excel 365 for Mac で、Smart View (Mac and Browser)を使用することもできます。次の情報ソースを参照してください。

- サービス管理者は、すべてのユーザーに Smart View (Mac and Browser)をデプロイします。前提条件およびデプロイメント手順は、*Oracle Smart View for Office (Mac and Browser)のデプロイと管理*を参照してください。
- ユーザーは、Smart View (Mac and Browser)を使用して EPM Cloud に接続し、タスクを完了します。*Oracle Smart View for Office (Mac and Browser)の使用*を参照してください。

次のサービス固有の拡張機能を使用できます。

- プランニング拡張機能 - Excel インタフェース内からディメンション管理などのアプリケーション管理アクティビティを容易に実行できる Smart View 管理拡張機能および Planning アプリケーション・テンプレートが含まれます。
- 管理者用 Smart View アドオン - アプリケーション管理アクティビティ (ディメンション管理など)を Excel インタフェース内から実行できます。
- トランザクションのための Smart View 拡張機能 - ユーザーが Excel インタフェースから照合コンプライアンス・トランザクションを管理できるようにします。
- 補足データ管理の Smart View 拡張機能 - ユーザーが Excel インタフェース内から補足データ管理を実行できるようにします。
- タスク・マネージャのための Smart View 拡張機能 - ユーザーが Excel インタフェース内からタスクを更新できるようにします。
- Narrative Reporting の Smart View 拡張機能 - ユーザーが Microsoft Office スイート内から割当済タスクを実行したりモデル・データを分析できるようにします。
- Financial Reporting Web Studio - 高度に書式化されたマルチディメンショナル・レポートを必要とする財務部門や機能分野の要件を満たす、高品質の財務レポート作成を可能にします。このコンポーネントにアクセスするには、サービスのリンクにアクセスします。
- 戦略モデリング - これは、ユーザーが戦略モデリングと対話できる Smart View のアドオンです。
- 予測プランニング - これは、Smart View の拡張機能であり、有効なフォームを使用して、履歴データに基づいてパフォーマンスを予測できます。
- サンプル・コンテンツ - サンプルのレポート・パッケージ、管理レポート、ディメンション・ファイル、データ・ロード・ファイルおよびサンプル・アプリケーションを提供します。

Planning、Planning モジュールおよびフリーフォーム

- EPM 自動化
- Smart View

- プランニング拡張機能
- 予測プランニング
- Financial Reporting Web Studio
- 戦略モデリング(Planning モジュールの場合のみ)

Account Reconciliation

- EPM 自動化
- Smart View
- トランザクションのための Smart View 拡張機能

Enterprise Profitability and Cost Management

- Smart View
- プランニング拡張機能
- EPM 自動化

Financial Consolidation and Close および Tax Reporting

- Smart View
- 管理者用 Smart View アドオン
- 決算および補足データ管理の Smart View 拡張機能

Profitability and Cost Management

- EPM 自動化
- Smart View
- Financial Reporting Web Studio

Narrative Reporting

- サンプル・コンテンツ
- EPM 自動化
- Smart View
- Narrative Reporting の Smart View 拡張機能

Oracle Enterprise Data Management Cloud

EPM 自動化

Sales Planning

- EPM 自動化
- 予測プランニング
- Smart View
- プランニング拡張機能
- 戦略モデリング

Strategic Workforce Planning

- Smart View
- プランニング拡張機能
- 予測プランニング

Smart View の前提条件

Oracle Enterprise Performance Management Cloud サービスでは、Oracle Smart View for Office の要件に加え、Microsoft Office の要件も満たす必要があります。

- 最新の Smart View リリースは、[Oracle Technology Network](#) の「ダウンロード」タブから使用できます。最新機能を利用するには、現在のバージョンの Smart View をインストールする必要があります。

現在の Smart View リリースおよび 1 つ前のリリースが EPM Cloud の更新についてサポートされます。たとえば、Smart View バージョン 23.200 および 23.100 が EPM Cloud 23.11 の更新についてサポートされます。

- .NET Framework 4.8 以上

Smart View プラットフォームおよび Microsoft Office の要件については、[Smart View サポート・マトリックスおよび互換性の FAQ \(My Oracle Support ドキュメント ID 1923582.1\)](#)を参照してください。

ノート:

一部のサービスでは拡張機能とテンプレートを提供しており、それらは Smart View のインストール後にダウンロードおよびインストールします。サービスに適用可能な拡張機能とテンプレートは、サービスの「**ダウンロード**」ページから使用できます。

Smart View および Calculation Manager を使用するサービス

Smart View

Account Reconciliation と Oracle Enterprise Data Management Cloud を除くすべての Oracle Enterprise Performance Management Cloud サービスでは、クライアント・コンポーネントとして Oracle Smart View for Office を使用します。

Calculation Manager

次のものを除くすべての EPM Cloud サービスが Calculation Manager を使用します:

- Profitability and Cost Management
- Enterprise Profitability and Cost Management
- Tax Reporting

- Account Reconciliation
- Narrative Reporting

クライアントのダウンロードおよびインストール

「**ダウンロード**」ページから Oracle Enterprise Performance Management Cloud コンポーネントおよびユーティリティをダウンロードします。Oracle Smart View for Office は Oracle Technology Network からダウンロードできます。

EPM 自動化のインストールの詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作*の EPM 自動化のインストールを参照してください。

EPM Cloud クライアントをインストールするには:

1. 環境にサインインします。EPM Cloud へのアクセスを参照してください。
2. **ホーム**・ページで画面の右上隅のユーザー名をクリックし、「**設定およびアクション**」にアクセスします。
3. 「**ダウンロード**」をクリックします。
「ダウンロード」ページが表示されます。このページには、現在アクセスしているサービスに適用可能なコンポーネントのみがリストされます。
4. インストールするコンポーネントをダウンロードします。

Smart View のみの場合:

- a. 「**Oracle Technology Network からダウンロード**」をクリックします。
Oracle Technology Network のダウンロード・ページが表示されます。
- b. 「**最新バージョンをダウンロード**」をクリックします。
- c. 「**ライセンス契約に同意する**」を選択し、「**今すぐダウンロード**」をクリックします。
- d. サインインするよう求められたら、Oracle Technology Network 資格証明を入力し、「**サインイン**」をクリックします。
- e. 画面上の指示に従い、ローカル・フォルダに **Smart View** アーカイブを保存します。
- f. Smart View アーカイブを解凍して SmartView.exe を抽出します。
- g. すべての Microsoft Office アプリケーションを閉じます。

Smart View 以外のコンポーネントの場合:

- a. 「**ダウンロード**」ページで、インストールするコンポーネントの「**ダウンロード**」ボタンをクリックします。
 - b. 画面上の指示に従い、ローカル・フォルダにインストーラを保存します。
5. 管理者としてインストーラ(たとえば SmartView.exe)を実行します。

ノート:

Smart View または Smart View 拡張機能をインストールする前に、すべての Microsoft Office アプリケーションを閉じてください。一部の Smart View 拡張機能は、SVEXT 拡張機能を使用します。ダウンロードしたファイルをダブルクリックし、画面の指示に従ってインストールします。

Smart View を使用したサービスへのアクセス

共有接続またはプライベート接続を使用して、Oracle Smart View for Office にアクセスできます。

この項の内容:

- [接続タイプ](#)
- [Smart View 接続の URL 構文](#)
- [Smart View での接続の構成](#)
- [Smart View 接続の開始](#)

接続タイプ

Oracle Smart View for Office では、次の接続タイプがサポートされます。使用する接続タイプとは関係なく、同じデータが表示されます。

- **共有接続:** 環境のパブリック URL (これは、ブラウザを通じて環境にアクセスするためにも使用されます)を使用して、Smart View と Oracle Enterprise Performance Management Cloud 環境間で接続を確立します。[共有接続の構成](#)を参照してください。
- **プライベート接続:** 環境固有の URL を使用して、Smart View と EPM Cloud 環境間で接続を確立します。[プライベート接続の構成](#)を参照してください。

これらの接続タイプの詳細は、*Oracle Smart View for Office ユーザーズ・ガイド*の共有接続とプライベート接続を参照してください。

Smart View 接続の URL 構文

Oracle Smart View for Office は、共有接続とプライベート接続で異なる URL 構文を使用します。

- [クラシック環境](#)
- [OCI 環境](#)

クラシック環境

サービス・タイプごとに指定する必要がある URL 構文のガイドとして、次の情報を使用してください。

Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close および Tax Reporting

共有接続の構文:

```
https://env-example-idDomain.dom1.oraclecloud.com/workspace/  
SmartViewProviders
```

プライベート接続の構文:

```
https://env-example-idDomain.dom1.oraclecloud.com/HyperionPlanning/  
SmartView
```

Narrative Reporting

プライベート接続の構文:

```
https://env-example-idDomain.dom1.oraclecloud.com/epm/SmartView
```

Profitability and Cost Management

プライベート接続の構文:

```
https://env-example-idDomain.dom1.oraclecloud.com/aps/SmartView
```

OCI 環境

サービス・タイプごとに指定する必要のある URL 構文のガイドとして、次の情報を使用してください。

Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Enterprise Profitability and Cost Management および Tax Reporting

共有接続の構文:

```
https://CLOUD_INSTANCE_NAME-  
CLOUD_ACCOUNT_NAME.SERVICE.DATA_CENTER_REGION.DOMAIN/workspace/  
SmartViewProviders。
```

例: `https://acme-epmidm.epm.us-phoenix-1.ocs.oraclecloud.com/
workspace/SmartViewProviders`

プライベート接続の構文:

```
https://CLOUD_INSTANCE_NAME-  
CLOUD_ACCOUNT_NAME.SERVICE.DATA_CENTER_REGION.DOMAIN/  
HyperionPlanning/SmartView。
```

例: `https://acme-epmidm.epm.us-phoenix-1.ocs.oraclecloud.com/
HyperionPlanning/SmartView`

Narrative Reporting

プライベート接続の構文:

```
https://CLOUD_INSTANCE_NAME-  
CLOUD_ACCOUNT_NAME.SERVICE.DATA_CENTER_REGION.DOMAIN/epm/SmartView
```

例: `https://acme-epmidm.epm.us-phoenix-1.ocs.oraclecloud.com/epm/SmartView`

Profitability and Cost Management

プライベート接続の構文:

`https://CLOUD_INSTANCE_NAME-CLOUD_ACCOUNT_NAME.SERVICE.DATA_CENTER_REGION.DOMAIN/aps/SmartView`

例: `https://acme-epmidm.epm.us-phoenix-1.ocs.oraclecloud.com/aps/SmartView`

Smart View での接続の構成

Oracle Smart View for Office をインストールしたら、環境への接続を設定する必要があります。

- [共有接続の構成](#)
- [プライベート接続の構成](#)

トラブルシューティング

Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイドの Smart View の問題の修正を参照してください。

共有接続の構成

共有接続を構成するには:

1. Microsoft Excel を起動します。
2. 「Smart View」、「オプション」、「詳細」の順にクリックします。
3. 「共有接続 URL」で、接続 URL を入力します。接続構文は、[Smart View 接続の URL 構文](#)を参照してください。
4. 「OK」をクリックします。

プライベート接続の構成

プライベート接続を作成するための代替方法は、Oracle Smart View for Office ユーザーズ・ガイドのクイック接続方法の使用に関する項を参照してください。

プライベート接続ウィザードを使用してプライベート接続を構成するには:

1. Microsoft Excel を起動します。
2. 「Smart View」をクリックし、次に「パネル」をクリックします。
3. Smart View パネルで、 (切替え)の横にある矢印をクリックし、「プライベート接続」を選択します。
4. パネルの一番下にある「新規接続の作成」をクリックします。
5. 「Smart View」から、「Smart View HTTP プロバイダ」を選択します。

6. 「URL」で、接続 URL を入力します。接続構文は、[Smart View 接続の URL 構文](#)を参照してください。
7. **次**をクリックします。
8. 「ログイン」で、サービスにアクセスするためのユーザー名とパスワードを入力し、「サインイン」をクリックします。
9. 「接続の追加 - アプリケーション/キューブ」で、操作するアプリケーションとキューブに移動し、それを選択して「次」をクリックします。
10. 「接続の追加 - 名前/説明」で、接続の名前とオプションの説明を入力します。
11. 「終了」をクリックします。

Smart View 接続の開始

場合によっては、Oracle Smart View for Office の接続を開始するためにサインインする必要があります。

ワークシートごとに 1 つのサービスにのみ接続できます。

データ・ソースへの接続方法など、Smart View でのナビゲーションについては、このチュートリアル・ビデオをご覧ください。



[チュートリアル・ビデオ](#)

接続を開始するには:

1. Microsoft Excel を起動します。
2. 「Smart View」をクリックし、次に「パネル」をクリックします。
次のいずれかを選択します:
 - a. 「共有接続」を選択し、事前に構成した共有接続を選択します。[共有接続の構成](#)を参照してください。
 - b. 「プライベート接続」を選択し、ドロップダウン・リストから、事前に構成したプライベート接続を選択します。[プライベート接続の構成](#)を参照してください。
3. ➔ をクリックします(選択したサーバーまたは URL に移動)。
「ログイン」画面が表示されます。
4. 「ログイン」で、サービスにアクセスするためのユーザー名とパスワードを入力し、「サインイン」をクリックします。

トラブルシューティング

*Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイド*の Smart View の問題の修正を参照してください。

Financial Reporting Web Studio を使用したサービスへの接続

サービスのリンクを選択して Financial Reporting Web Studio にアクセスします。

Financial Reporting Web Studio を起動するには:

1. ブラウザを使用して、環境にアクセスします。[EPM Cloud へのアクセス](#)を参照してください。
2.  (ナビゲータ)をクリックし、「**Reporting Web Studio**」を選択します。

5

新機能および更新の学習

この項の内容

- [EPM Cloud 機能ツール](#)を使用した各月にリリースされた機能の表示
- [環境の更新の理解とレディネス情報の表示](#)

EPM Cloud 機能ツールを使用した各月にリリースされた機能の表示

[EPM Cloud 機能ツール](#)を使用して、Oracle Enterprise Performance Management Cloud ビジネス・プロセス用に各月にリリースされた機能のリストを表示します。テキスト検索を実行し、リンクをクリックして、新機能ドキュメントおよび [EPM Cloud ガイド](#) で各機能の詳細を確認できます。

環境の更新の理解とレディネス情報の表示

通常、オラクル社では、月の第 1 金曜日にバグ修正、コード最適化および機能更新を含むパッチをリリースします。このパッチは、パッチ・リリースに続く次の日次メンテナンス・ウィンドウ中に、サービスのテスト環境に適用されます。本番環境は通常、月の第 3 金曜日にパッチが適用されます。

環境の月次更新

オラクル社は、各パッチに含まれる更新についてサービス管理者に通知します。マイナー・パッチ・リリースの場合、オラクル社は、通常、1 週間前の事前通知を行ってから、テスト環境のパッチを適用します。メジャー更新の場合、2 か月前の事前通知を行います。

レディネス情報の表示

現在インストールされているサービスの更新の詳細情報を示すドキュメントは、[Oracle Cloud リリース・レディネス Web サイト](#)に掲載されています。この Web サイトで得られる情報には、お知らせや新機能、動作の変更、修正された不具合などがあります。

ノート:

Oracle Cloud リリース・レディネス Web サイトを直接開くには、<https://cloud.oracle.com/saas/readiness/overview> に移動します。

サービスからレディネス情報にアクセスするには:

サービスからレディネス情報にアクセスするには:

1. 環境にアクセスします。

2. ホーム・ページで画面の右上隅のユーザー名をクリックし、「**設定およびアクション**」にアクセスします。
3. 「**情報**」、「**バージョン**」の順に選択します。
4. 「**Oracle Enterprise Performance Management リリース・レディネス**」リンクをクリックします。
Oracle Cloud リリース・レディネス Web サイトが表示されます。
5. 「**Enterprise Performance Management**」をクリックし、次に「**Planning & Budgeting**」などのサービス・タイプをクリックします。

トラブルシューティング

Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイドのダウンロードした環境への対処

6

フィードバックの提供ユーティリティを使用してオラクル社の診断情報収集に協力する

フィードバックの提供ユーティリティを使用すると、効率的な問題の診断と解決に役立ちます。このユーティリティは Oracle Enterprise Performance Management Cloud 環境で使用できます。

サービスの使用中に問題が発生した場合、フィードバックの提供ユーティリティを使用して、問題および再現するステップを記述します。問題の解決を容易にするため、フィードバックの送信に複数のスクリーンショットを追加することをお勧めします。タスク全体の進行状況を示した一連のスクリーンショットを追加することで、オラクル社がユーザーの問題を再現する方法を示したストーリーボードを作成できます。

ユーザーがフィードバックの提供ユーティリティを使用して、オラクル社にフィードバックを送信するたびに、フィードバック通知(ユーザーが送信した情報のサブセット)がサービス管理者およびフィードバックを送信したユーザーに送信されます。これらの通知を使用すると、サービス管理者は送信された問題を確認し、修正アクションを提案できます。フィードバック通知は、デフォルトで有効になっています。

各サービス管理者は、電子メールに含まれている **サブスクリプト解除** リンクをクリックして、通知をオフにできます。[フィードバック通知の無効化](#)を参照してください。サブスクリプト・ステータスに関係なく、通知は常にフィードバックを送信したユーザーに送信されます。

ユーザー・インタフェースが応答しなくなった場合、**feedback EPM** 自動化コマンドを使用して、オラクル社にフィードバック(テキストのみ)を提供することもできます。

目的	方法の学習
問題をすばやく解決するために送信する必要がある情報の理解	 概要ビデオ
「フィードバックの提供」を使用して情報を収集および送信するプロセスの理解	 概要ビデオ

フィードバックの提供ユーティリティを使用したフィードバックの送信

フィードバックを提供する前に、問題が検出されたときのプロセスの段階にあることを確認します。

ノート:

フィードバックの提供ユーティリティを使用して診断情報を送信すると、オラクル社に送信されますが、サービス・リクエストは作成されません。サービス管理者が問題を解決できない場合、送信した情報を使用してサービス・リクエストを作成できます。サービス・リクエストの作成時に参照番号の入力を求められますが、これは、ユーティリティを使用して診断情報を送信したときに画面に表示されます。また、参照番号はフィードバック通知の電子メールにも含まれています。参照情報の入力、オラクル社が必要な診断データを簡単に収集するために役立ちます。

フィードバックを提供するには:

1. フィードバックを提供する対象の画面が表示されているときに、(画面の右上隅に表示される)ユーザー名をクリックして「**設定およびアクション**」を開き、「**フィードバックの送信**」を選択します。
2. 「**簡単な説明を入力してください**」に、発生した問題について説明します。
3. **オプション:** 画面の領域を強調表示または暗くするオプションを選択します。
 - 「**強調表示**」を選択して、画面上をクリック・アンド・ドラッグして画面の一部を強調表示します。たとえば、エラーや問題を強調表示します。
 - 「**暗くする**」を選択し、画面上をクリック・アンド・ドラッグして画面の一部を非表示にします。スクリーンショットから機密データを非表示にする場合はこのオプションを使用します。
4.  (「追加」ボタン)をクリックしてスクリーンショットを取得します。
5. **オプション:** 別のスクリーンショットを追加します。
 - a. 取得する新しい画面に移動します。
 - b.  (追加)をクリックします。
 - c. **オプション:** 画面の領域を強調表示または暗くするオプションを選択し、画面上をクリック・アンド・ドラッグして領域を強調表示または暗くします。
 - d. 現在の画面で実行した問題またはアクションを記述します。
 - e. 「**追加**」をクリックします。
 - f. このステップを繰り返して別のスクリーンショットを追加します。
6. 「**送信**」をクリックします。
7. ブラウザ、環境およびプラグイン情報を確認します。  (次)をクリックしてスクリーンショットを確認します。

8. 「送信」をクリックします。
9. **オプション:** 問題を解決するためにオラクルの支援が必要な場合は画面上の指示に従ってサービス・リクエストを記録します。サービス・リクエストの作成時には、必ず、画面に表示される参照番号を入力してください。参照番号はフィードバック通知の電子メールにも含まれています。
10. 「閉じる」をクリックします。

フィードバック通知の無効化

デフォルトで、サービス管理者はユーザーがオラクル社にフィードバックを送信するたびに、フィードバック通知を受け取ります。各受信者は、通知メーリング・リストからサブスクライブ解除できます。

サービス管理者は通知に含まれている情報を使用して、問題を確認し修正アクションを提案します。

サブスクライブ解除すると、環境の次の日次メンテナンスの後にフィードバック通知が無効になります。ただし、自分が送信したフィードバック通知は引き続き受け取ります。

ノート:

フィードバック通知を無効にすると、再度有効にできません。

フィードバック通知を無効にするには:

1. フィードバック通知電子メール(EPM Cloud ユーザー・フィードバックから送信)を開き、**サブスクライブ解除**をクリックします。
2. 要求された場合は、環境にサインインします。
3. **サブスクライブ解除**をクリックします。
4. 「閉じる」をクリックします。